

# 同窓会報



ハクモクレンと法文学部 (2018年3月15日撮影)

## はじめまして 愛媛大学法文学部マスコットキャラクター 「ぶんぼー」です!

フクロウ科ミミズクをモチーフに「法文」にちなんでつけられました。グローバル・マインドをもって、新たな文化・社会の実現に貢献するグローバル人材を育成することを目指す文系総合学部である愛媛大学法文学部を表現したキャラクターです。“鉛筆”を模した翼をもち、“書物”を小脇に抱え、“地球”と愛媛大学のブランドマークの“ドット・イー”が描かれた帽子をかぶっています。首を傾けたりグルリと180度首を回したりする独特の動作にちなんで、「一つの物の見方・考え方にとらわれず、様々な視点から多角的に現実を見て、熟考する」というメッセージも込めています。



【原作者】  
松尾奈菜子さん  
(人文社会学科)

愛媛大学法文学部同窓会事務局

〒790-8577 松山市文京町3番 愛媛大学法文学部内 tel.089-917-6376 fax.089-917-6476  
E-mail:support@ehime-u-houbun-dousoukai.com [HP] http://ehime-u-houbun-dousoukai.com

# 第15回 法文学部同窓会 総会ご案内

日時：2018(平成30)年11月11日(日)

11:00～ 四国支部総会

11:20～ 本部総会

12:00～ 軽食(12:50 終了)

引き続き、法文学部創立50周年記念式典・祝賀会が開催されます。詳細は下記の「法文学部は創立50周年を迎えました」をご覧ください。

会場：松山全日空ホテル(南館)

内容：3年間の活動のまとめ・支部活動報告・役員改選・次期活動方針など

会費：無料

※お申し込みは同封のハガキをご利用ください。



## 法文学部は創立50周年を迎えました

愛媛大学法文学部は、1919(大正8)年4月設置の旧制松山高等学校及び1949(昭和24)年5月設置の愛媛大学文理学部人文学科以来の伝統を受け継いで、1968(昭和43)年4月に設置され今年で50周年を迎えました。そして教育研究組織として順調に発展し、優れた卒業生を社会に輩出してきました。

◎記念事業のご紹介 ※記念事業支援のため、法文学部同窓会が200万円を寄付しています。

### 創立50周年記念式典及び記念祝賀会の開催

日時：2018(平成30)年11月11日(日)

① 記念式典 13:00～

記念講演：岡本英男先生(東京経済大学長、1974年法学科卒業)

② 記念祝賀会 15:00～

「ぶんぼー」着ぐるみ紹介、男性コーラスグループ「ダンディーズ」の演奏など

場所：松山全日空ホテル(南館)

※記念式典、記念祝賀会には同窓会員も無料で参加できます。参加をご希望の方は、同封のハガキにてお申し込みください(申し込み多数の場合は、抽選とさせていただきます)。

### マスコットキャラクター「ぶんぼー」制定

在校生の松尾奈菜子さん(当時1回生)がデザインし、着ぐるみも制作

### グッズの製作

① 今治タオル(学部ロゴ入り)

② トートバッグ(「ぶんぼー」のロゴマーク付)

③ クリアファイル(「ぶんぼー」をデザイン)

### 『愛媛大学創立五十周年記念誌』の刊行



「ぶんぼー」と記念撮影する原作者の松尾奈菜子さん(中)、吉田正広法文学部部長

## 目次



愛媛大学  
EHIME UNIVERSITY

法文学部同窓会報  
第22号

総会のご案内	2	和田茂樹先生の想い	20
法文学部創立50周年記念事業	2	寄付ご芳名一覧	22
同窓会への寄付のお願い	3	法文学部人事異動	23
同窓会名簿の発行について	3	キャンパス案内/Q&A	24
学部長・事務課長インタビュー	4	松高同窓会/HPリニューアル	25
研究室紹介(人文学・竹川先生)	6	サークル紹介	26
(社会科学・近廣先生)	7	平成29年度卒業記念祝賀会	27
メキシコ現地レポート	8	支部だより	28
大手メーカーの人財開発部長として	11	支部紹介(四国支部)	30
退職された教員の方々	12	パズル・感想・編集後記	32
理事会報告	13		
同期会	14		
卒業生から	16		
提供講座・寄付科目 報告/感想	18		

題字：柴田 祐昭  
(文理学部人文学科史学専攻・第8回卒)  
[明楽寺住職・愛媛県美術会常任評議員・  
県展審査員・毎日書道展審査員]

# 同窓会への寄付を引き続きお願いします

平成29年から会員の皆様に同窓会への寄付をお願いしております。

今後とも同窓会活動を充実させるとともに、法文学部学生への支援を行っていくために皆様のご協力をお願いします。

**金額：3,000円以上（3,000円以上であれば、いくらでも構いません）**

愛媛大学法文学部同窓会 会長 小池 昭彦

## 寄付の使途

法文学部は、2016年4月の愛媛大学の学部再編により、2学科から人文社会学科1学科のみとなり、その中にグローバル・スタディーズコースを設け、グローバルな視野を持った人材を育てるため、海外留学を大幅に拡大しております。

同窓会では、2018年3月末現在、404名の方から2,023,500円のご寄付を頂いております中から、愛媛大学基金を通じて100万円を法文学部学生の海外留学支援に活用させていただきました。

同窓会報誌と共に法文学部が作成した「青い地球交流記」を同封いたしますので、是非、ご覧ください。

### 法文学部学生の海外留学数

	人文社会学科	後援会の海外留学補助人員
2017年	132名(23ヶ国)	100名
2016年	126名(20ヶ国)	84名
2015年	—	53名
2014年	—	61名
2013年	—	74名



(注) 学部では、人文社会学科以前の留学数の把握は一部のみとなっているため、参考に法文学部後援会の海外留学補助人員を掲載しておりますが、実際の海外留学数とは一致していません。

## 平成31年の同窓会創立60周年に向けて 同窓会名簿を発行します！

法文学部同窓会では、同窓会各支部からの要望及び会員の皆様へのアンケート結果を踏まえて、総務省の第三者機関である個人情報保護委員会の会員名簿作成の指針に則り、会員の皆様のプライバシーの意向にも最大限の配慮をした上で、同窓会名簿を発行することになりました。

全国で約1,800校、四国で91校の名簿発行の実績があり、プライバシーマークを取得している名簿発行業者(株)サラトを通じて発行します。(株)サラトと同窓会はプライバシーに関して厳格な契約を結んでおります。会員の皆様はご安心ください。

具体的には、(株)サラトより名簿発行に関して返信先が法文学部同窓会宛の葉書が11月頃に会員の皆様の元に届きます。葉書の内容を確認していただき、必ずご返送ください。同窓会名簿には、会員の皆様が可とした項目しか掲載いたしません。

今後とも、愛媛大学法文学部同窓会へのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします



愛媛大学法文学部同窓会  
会長 小池 昭彦

(株)サラト 本社：兵庫県姫路市  
設立：昭和48年  
事業内容：同窓会名簿の調査・編集・発行、同窓会・各種団体の会員情報処理、会報・会誌の編集印刷、各種郵便物の発送代行など  
従業員：181名  
HP：<https://www.salat.co.jp/>

# 吉田正広法文学部長、 塩出和久事務課長に聞きました

**Q：2016年4月の学部再編から2年が経過して、どのような感想をお持ちですか？**

**学部長：**学部改組には、当時の教育・学生支援機構長として松本長彦先生が対応しておられて、私は人文学科の代表としてかかわりました。そういうわけで、ある意味私自身にとってもいんならぬ思いがあります。

我々は「幅広い教養と深い専門性の上に実践的な能力をそなえたグローバル人材の育成」を法文学部の目標として掲げました。それに合わせて人文社会科学1学科とし、法学・政策学履修コース、グローバル・スタディーズ履修コース、人文学履修コースという3つのコースを設置しました。法文学部全体の理念としてグローバル人材の育成を教育目標にしましたので、新法文学部を作るときに、学生全員になんらかのグローバル教育の成果を



吉田正広法文学部長

身につけさせるために、例えば、初修外国語は少なくとも昼間主は必修とし、共通教育とは違う学部学生がとる「専門共通英語」という英語科目を設定し、それを必修化しました。

さらに、「日本文化の理解」という科目を新たに設定して「現代日本の理解」と併せて必修としました。

このようにグローバル教育ということで、かなり新しい科目を必修にし、そのような能力を身につけさせることを目指したつもりです。私自身は西洋史を教育・研究分野としているのですが、その私が「日本文化の理解」をまず担当しました(笑)。それで日本文化についてですが、私は現代イギリス史を研究していてイギリスに行くこともあるので、イギリスで日本文化がどういふふうで紹介され、理解されているのかということ、写真などを交えて話しました。学生の反応としては「おもしろい」という意見や「『日本文化の理解』なんだからもっと日本文化そのものを知りたかった」という意見もあって、まあ、教員の皆さん「日本文化の理解」には苦労しているところです。

そういう新しい試みをしながら、この4月には、新法文学部の最初の入学生がこれから専門性が出てくる3回生になりました。ご質問の感想としては、今なんとか改組の理念を実現している過程にあるのだなあと思っています。

新しい法文学部は1学科になったので、入試が一本化されて全員が同じ試験を受けて入ってきたわけです。1回生の終わりにコース分けをします。まず全員の希望を聞いて、基本的には希望に沿って割り振りをしていくんですが、どこかにあまりに偏ってはいけませんので、その場合には選抜をすることになっています。1年目はだいたいこちらの予定していた人数とあまり変わらない希望が出たんですが、2年目は人文学履修コースに、定員の2割をわずかに超える希望者が集中しました。それについて希望を出した人の意志を尊重して、基本には希望通りということにしましたので、かなり人文学履修コースに偏った形での配属となりました。7月に指導教員を決める

のようですが、それにむけて、一方では最初の年よりも法政策履修コースが少なくなって、逆に人文学履修コースが多くなったのでこれから問題が出てくるかなと思っています。やはり我々法文学部は少人数指導ができるという良さが大事なところなので、一部に何十人も集中してしまうときちんとした指導ができるんだろうかという心配があります。でも、これはクリアしていかなくてはならない問題ですので、教務委員会を中心に対応していきますが、今後の課題の一つかなと思っています。

**Q：事務的な面からは何かありますか？**

**事務課長：**私は改組前には副課長として法文学部に在籍していましたが、ここ2年間は社会連携課に在籍しておりまして、この4月から法文学部に戻って来たばかりなので、学部再編についてはくわしく感想を述べることはできませんが、学期制が従来の2学期制に加えてクォーター制(4学期制)を敷いたということで先生方もいろいろご苦労されているようですし、学生もサイクルが短くなったこと、慣れていないこと、また施設面では、教室がなかなか確保できていないということも聞いています。そのあたりが2年経って少し慣れてきたという感じです。でもまだ3年目で卒業生も出ていませんから、もう少し様子を見て、というところです。



塩出和久事務課長

**Q：前期・後期の2学期制の学生とクォーター制の学生が混在しているということですか？**

**事務課長：**学部によっては従来通りの2学期制のところもありますが、基本的には2学期制で、その前期・後期をさらに二つに分けたのをクォーター制としています。これを取り入れているのは全学部的には共通教育がそうなので、他の学部の学生さんも2年の前期くらいまではクォーター制のカリキュラムで授業を受けています。

**学部長：**ここが難しいところなんですけど、基本的には愛媛大学は前期・後期の2学期制です。前期の4～6月を第一クォーター、6～8月を第二クォーターとしていて、まあ、ある意味混在しているといえます。

**Q：ああ、うちの息子も法文学部の学生なんですが、6月初めにテストがあると言っていて、「なぜそんな時期に？」と思ったんですが、第一クォーターが終わったからなんですわ。**

**学部長：**そうです。ひとつの科目を週2回授業して、ひとつのクォーターの中で15回やって終わらせてしまうので、これが実は結構大変なんです。一週間に2回同じ科目の授業をするのですから教員は準備に追われます。学生に課題を出しても、数日しか猶予が無い。語学などは詰めて授業をした方がいいという意見もありますが、もう少しじっくり考える講義などはせわしないですし。

**Q：このカリキュラムについての評判はどうなんですか？**

**学部長：**平成29年度にクォーター制に関する教員アンケートを実施しました。その結果、59%の教員がクォーター制は止めるべきとの回答をしました。その理由としては、先ほども言いましたけど、授業のテンポが悪くなったことや、授業の準備に十分な時間をとれなくなったこと、次回授業までに出席カードのコメントのチェックが追いつかなかったことがあるなど、授業に与える弊害や教員の忙しさが増したことが明らかになったからです。今後、学生の意見も聞いて、どうするか検討が必要です。

ただ、クォーター制にもメリットはあって、学生や教員が海外へ行きやすくなります。たとえば第一・第二・第四クォーターで集中的に授業をとって、夏休みと第三クォーターの間に海外へ出て学ぶという形をとることができます。クォーター制を導入したのはこのメリットも考えたからです。ですが実際には難しいようで、なかなか実行する学生はいないようです。

**Q：今後の学部の動向について何か予定等がありますか？**

**学部長：**一つは、平成32年度に大学院の法文学研究科の改組（仮称：人文社会科学研究科）が予定されています。これについては現在検討中です。

もう一つは、法文学部改組の完成年度（平成31年度）を迎えて、全学の方針として教員が定年になっても新たな教員を採用することが難しく、教員数の減少が進む中でこれまでのカリキュラムをどのように維持していくのか、維持できないとすれば、どこをどのように変えていくかという課題があります。こちらも、現在検討中です。

**Q：それはやはり教員を雇う予算が足りない、と・・・。**

**学部長：**そうですね。これは愛媛大学だけではなく全国的な問題なんです。でも、できるだけのことをするのが私の仕事だと思っています。

**Q：売り手市場と言われている中で学生の就職状況についてはどうですか？**

**学部長：**就職支援課がまとめた数値では、平成29年度の就職率は法文学部全体として97.2%というこれまでにない高い数値を記録しました。これは喜ばしいことですが、就職を希望しない学生は母数から除かれます。残念ながら、さまざまな理由で就職を希望しないまま卒業する学生もおります。これらについてはさまざまな理由が考えられるので仕方がない面もあるのですが、今後の課題です。

**Q：地元の官公庁や企業への就職が多いですか？**

**事務課長：**50%まではいっていませんが、それに近い数字ですわ。だいたい毎年半数近くが地元の企業や官公庁です。

**Q：同窓生及び同窓会へ一言**

**学部長：**同窓会からは、同窓会提供講座「社会と人間」、同窓会寄付講座を支援いただき、たいへん感謝しています。とくに「社会と人間」は社会でご活躍の同窓生の方々のお話を学生に聞かせることで、社会に出て働くとはどのようなことかを学生たちに教える上で、貴重な機会となっております。また、グローバル人材の育成に向けての海外派遣へのご支援もたいへん助かっております。さらには、今年度法文学部創立50周年を迎えるにあたって、その記念行事にも多額の支援をいただき、心より御礼申

上げます。松本長彦先生を委員長に50周年記念事業実施委員会を中心に現在準備を進めております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

**Q：その他何かあれば・・・**

**学部長：**今回、文理学部人文学科乙の昭和43年（1968年）卒業生の皆様から、絵画の寄贈を受けました。学部長室の壁に掛けてあります。これは、この卒業生のお一人の菅省三様の作品です。赤と白のバラの絵で、学部長室が少し明るくなったようで私はたいへん気に入っております。卒業生の皆様が現在の法文学部に対して温かい目で見守っていただいておりますこと、改めて驚くとともに嬉しく思いました。母校への愛着と見守りに感謝しています。

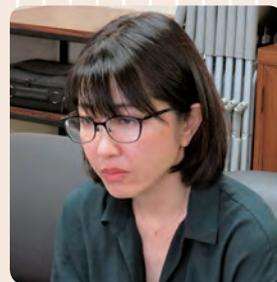


また、法文学部創立50周年記念の祝賀会が11月11日に実施予定ですが、その祝賀会での講演をお願いするために、法文学部の卒業生で現在東京経済大学の学長をお務めの岡本英男先生にお会いする機会がありました。岡本英男先生は、昭和49年（1974年）3月に法文学部法学科（経済学専攻）を卒業されました。その後、法文学専攻科を経て東北大学大学院経済学研究科に進学され、同大学助手、東北学院大学を経て、1997年に東京経済大学に教授として赴任され、今年の4月に学長に就任されています。奥様も法文学部の卒業生と聞いております。

岡本先生とのお話でたいへん印象に残っていることがあります。それは、当時の愛媛大学法文学部の学生は指導教員とのつながりが強いなか、少人数教育、ゼミの重要性、学生同士の研究会や、読書を中心とした学生生活が非常に充実していたというお話です。実は私自身、千葉大学教育学部を昭和54年（1979年）に卒業して、1年後に当時の東京都立大学大学院に入学しました。千葉大学は首都圏にありながらも地方国立大学で、岡本先生のお話とまったく同じ体験をしました。地方国立大学で研究の面白さを知って大学院に進学した経験も同じです。

岡本先生は東京経済大学の学長として自ら体験した愛媛大学法文学部での勉学のあり方を現在の東京経済大学の教育に取り入れることをお考えとのことでした。国立大学は改組すればするほど本来の地方国立大学の良さが失われていくという岡本先生のご指摘はその通りだと言わざるを得ません。平成28年（2016年）の改組と現在進行中の大学院法文学研究科の改組にかかわっている私としては、愛媛大学法文学部の持つ良さを将来につないでいなくてはとつくづく思いました。今回岡本先生とお話して、希望が持てたのは、大学が改組してどんなに外枠は変わろうとも、教員と学生との信頼関係があれば、よい教育はできるのではないかと思いついた次第です。当時経済系の教員は6名しかいなかったそうです。私としては、愛媛大学法文学部ののんびりと勉強のできる環境を今後に是非つないでいきたいと思っております。ありがとうございます。

**事務課長：**学部創立50周年記念の年に事務課長として法文学部に戻ってこれたことに感謝しています。一層、学部を支えるために頑張っていきます。ありがとうございます。



聞き手：野寄明子

# 研究室紹介

シリーズ第6回目となる今回も、前号でインタビューした先生から「友達の輪」式のご紹介を受け、取材してきました。

## 人文学講座

### 竹川郁雄教授

社会学・教育社会学

Q. 先生のなさっている研究について教えてください。

A. 社会学です。私の定年まであと3年ほどなので、今回はいい機会だから自分が何をやってきたのかをちょっと整理してみようと思って、研究活動をまとめてみました。どうぞ。



クラシックの流れる部屋で

Q. (活動まとめの紙を見つつ)学校のいじめを研究なさっているんですね。いじめって、増えているんですか？

A. 変わってないでしょうね。増えても減ってもいない。世間で大きく取り上げられるのには波があって、私が大学院博士課程に進学して森田洋司先生の研究室でいじめ問題について研究を始めた1984年の秋に事件が起こって社会問題となり始めていました。

それまでは全然違う研究をしていて、権力論とかそういうのをやって修士論文を書いていたんですけども、森田先生は、いじめが社会問題になるだろうということを敏感に察知されて、いじめについて研究会をやるとうので私も参加したんです。

1985年に研究会が東京と大阪の小中学校で調査を実施して、そこから得たデータを分析しました。私はその成果を『いじめと不登校の社会学 一集団状況と同一化意識一』(1993年、法律文化社)として出版しました。1996年には森田先生代表のもとに、日本・イギリス・オランダ・ノルウェーのいじめの国際比較研究の調査を行いました。

2002年には科学研究費補助金を受けて、松山市民にいじめの郵送調査をしました。2011年にはさらに大洲市民にも郵送し、「いじめられる側にも責任がある」という意見がどういふところから発しているのか分析しました。

Q. どういうところからだったんですか。

A. いじめる側といじめられる側のどちらにも相応の責任があるという、対人関係の相対的な視点からとらえられていて、いじめは悪であるという社会的正義の視点が弱くなっているためだと判断しました。

2015年に愛媛大学附属高校で行ったアンケートで、

「いじめがあるが、自分がいじめられるかもしれないのを見て見ぬふりをする」ことをどう思うか尋ねたら、「やむを得ない」と答えた者が1年生で47.8%、2年生で57.1%、3年生で60.6%でした。上級生になるほど、正義よりもその場をうまくやり過ごす意識をもつ者が増えていく傾向がみえて、改めていじめに対する教育の大切さを思います。

Q. 四国遍路の研究もなさってるんですね。

A. 2005年に日本史の内田先生から依頼を受けて、現代の四国遍路について研究集会で発表するために研究をスタートしました。それ以来、昨年までに50番札所の繁多寺でお遍路さんにアンケートを合計8回実施しています。そのデータを分析して論文を書きました。平成期の遍路調査はあまり多くはないので、実態報告だけでも意味があるとは思いますが、十分に考えつくした納得のいく考察とはなってないですね。

また、遍路の紀行書を収集して読んでいますが、自らの遍路経験を実直に書いてあるものはおおいに参考になります。特に「お接待」は受け取り方も様々で、そのようなことがなぜ現代も続いているのか解明することが目下の課題です。



徳島県12番札所焼山寺。難所のひとつ

Q. 先生も実際に巡礼されているんですか。

A. ええ。やはり自分自身で経験することが重要ですから。休日を利用して、歩き遍路をしています。

Q. 歩きですか！大変ですね、それは。

A. 大変なところもありますが、なんとかかなります。昨年、88の札所を打ち終えて結願しましたが、今は自宅に近い47番札所の八坂寺から2周目を始めて、7番の十楽寺まで進みました。残された研究時間は少ないですが、実体験を踏まえて精一杯打ち込みたいと考えています。



学生と行った繁多寺でのアンケート調査

(インタビュー 野寄明子)

著書



## 社会科学講座

# 近廣昌志准教授

国際金融論・金融論

### Q. どういった研究をされていますか？

A. 大学院時代の研究（内生的貨幣供給理論）を踏襲して、例えば銀行預貸率変動の国際比較を進めています。日本と同時期にバブル経済とその崩壊を経験したスカンディナビア諸国ですが、日本とは対照的にマクロ預貸率が上昇しています。不思議に思いませんか？常識はこれに解を与えていないのです。



ネクタイは卒業生からのプレゼント

私の研究の特徴は「主流派」と異なり、簿記原理から説く金融の世界



執筆担当出版物。2019年には単著を出す予定

を構築したい、大袈裟に言えば経済学と会計学の融合とを目指しています。うまくいけばマクロおよびミクロ経済学の精緻化に貢献できます。

### Q. 授業やゼミナールの様子は？

A. ゼミナール指導の中心は論理学に近く、また講義では専門以外のこともいろいろと話します。例えば、松山が魅力のある地方都市になるための持論をよく話します。空港に「おもてなし日本一」と貼り出してみたり、美しさの欠片もない言葉を並べては「ことばのちから」と言ってみたり、接客のレベルがひどいとか、歩行者より自転車が優先されるとか、それらが恥ずかしいという感覚が育たなければ。

### Q. ゼミナールの思い出は？

A. ゼミナール合宿と「鍋会」です。他大学との合同合宿では、企業訪問・研究発表を通じて討論と論証の難しさを体験してもらっています。昨年度はゼミナール新歓としてセブ島に行きました。学生たちと鍋を囲むことも楽しみのひとつで、夏でも「すき焼」の一択です。

### Q. 休日の過ごし方は？

A. 国内外を問わずピアノ探索で忙しくしています。ピアノは同じメーカーやモデルでも一台一台が異なる個性



で溢れています。弾き手や調律師さんの育て方でも変わりますが、生まれ持った素質が特に重要。自宅のピアノも弾きますが、出先で出逢うピアノの音色をサンプリングして特徴や個性を確かめるのがたまらない。Web Siteにも載せていますが、現在約140のサンプリングを聴き比べいただけます。(http://chikahiro.info)

### Q. ピアノ好きになったきっかけは？

A. ごく最近までお袋がピアノを教えていたので、幼少期から自然と浸透した気がします。親父も常にレコードを回していましたし。最近では講演会としてピアノに関する話をする機会を頂いたり、たまにライブに出て弾いたりしています。



2017年12月に出演した演奏会にて

### Q. 他にはどんな活動を？

A. 同学部教授の今泉志奈子先生には及びませんが、私も南海放送ラジオに出演させて頂いており、お陰様で3年目になりました。現在は「Smile Mix」という番組の中で「ちかノミクス」(第2土曜日、午前9:30~45)を担当しています。金融や経済の仕組みや話題を掘り起こしています。前述Web Siteの「Media」のページをご覧ください。

### Q. 幅広くいろいろと活動されていますね。

A. ひとつに集中するより、複数の分野・案件を並行して進める方がうまくいく、私はそのようなタイプかも知れません。出版物の装幀デザインもお引受することも。同僚からは専門分野の表記を変えなきゃねと弄られています。本業が趣味を支え、趣味が本業を潤す、これが私のエコサイクルです。

### Q. 最後に、卒業生へのメッセージをお願いします。

A. リクルート制に関する卒業生の関わり方が十分とは言えません。卒業生にはご自身が開拓した横の繋がりを、現役学生のために縦にも結んで欲しいと期待しております。卒業生とも繋がる近廣ゼミナールにしたいと思っています。

(インタビュー 小林紀子)

# メキシコ現地レポート (三浦工業)

2017（平成29）年のホームカミングデーで三浦工業(株)代表取締役会長の高橋祐二氏（愛媛大学校友会会長）が講演されました。三浦工業といえば全国的なボイラのメーカーですが、意外にも法文学部の卒業生が多数入社しています。その中で、文系の卒業でありながら理系の職種で、しかも海外で活躍されている内田裕之さんと、本社の人財開発部部長を務めている谷水恭子さんに寄稿していただきました。

三浦工業株式会社 内田 裕之  
(1998年 経済学科卒)



松山の日赤病院でこの世に生を受け、小さい頃から愛大前を通りかかると母親から「あなたが大きくなったら行く大学はここ」と言われ続け、その望み通り愛媛大学に入学し、卒業までの22年間を松山市で過ごし、現在はメキシコに駐在しています。

私は三浦工業株式会社に勤めています。産業用の蒸気ボイラを中心に、医療用機器や食品機器、水処理機器などの製造・販売・メンテナンスを実施する機械メーカーです。顧客は街のクリーニング屋さんから大手ビール工場まで大小様々です。皆さんが口にするコンビニのおにぎりも、弊社の機器が大きく関わっているかもしれません。

私は入社以来20年間、メンテナンス部門の一員として現在に至っています。文系の出身でありながら理系の仕事をしています。

学生時代は、新歓学祭実行委員会に所属し、ハリボテ大会のお世話や学生祭の企画・運営に携わっていました。将来はサークルで実施していたよ



(上) メキシコのピラミッド  
(中) ソカロ広場  
(下) アナフアト

うな企画を立て、実行し、仕事の終了後は、打ち上げと称して美味しいお酒が飲めるような仕事をしたいと考えていました。しかし、この考えや希望は現実的ではないことに気付きました。

大学3回生の3月、父が他界し、家族は母とまだ中学生の妹と私の3人となり、私が妹の父親代わりにならねばと思い、地元で就職の出来る企業を優先的に就職活動を始めました。中でも三浦工業は、松山市では名の知れた企業であり、給与等の条件も良く、4回生の5月には内定を頂き、三浦工業への就職を決断しました。

## 経済学科卒がメンテナンス員に

しかしこれからが茨の道でした。在学中に会社から定期的に課題が送られてきます。三浦工業と言えば「ボイラ」という認識はありましたが、肝心のボイラが何をする機械か全く理解しておらず、蒸気圧力がどうの、蒸気発生量が100kg/h、2t/hとか、その違いすら理解出来ていませんでした。

新入社員研修が始まり、熱量の計算や水質の変化を示す化学式や、握ったことのない工具を持つての実習の毎日が苦痛でした。20日程経った頃、配属が発表されました。最初の配属は徳島県で、職種はメンテナンスでした。その仕事内容にショックで体の力が抜けた事を覚えています。研修の講師から、「入社して暫くはボイラのことを知ってもらう為、大半の人がメンテナンス員として配属されます」—単純な私はこれで納得しました。

研修が終わり、入社初日に上司、先輩社員に挨拶を済ませ、あと数分で朝礼というときに上司から「おい、行くぞ!」の声、緊急の修理が入り、勿論、配属初日の私は何も出来ず、ただ見ているだけ、呪文の数々です。全く理解出来ません。彼らの工具捌きを見て、絶対にこのレベルには辿り着けないと絶望感を抱きました。

配属されて3ヶ月後、今日から独りでお客さんを回るように言われました。不安で、直せないことも多々あり、お客様と上司や先輩に迷惑ばかり掛け、毎日大汗をかいて作業服は真っ黒、「俺は経済学科卒業なのに、何でこんな事をしているのだから?」「もう会社を辞めようか?」と悩んだ時もありました。

私がこの仕事を続けてこられた最大の要因は、お客様との出会いでした。勿論、お客様は様々で難しい方もいらっしゃいましたが、お茶を飲みながら長時間お話をして下さるお客様や、まだ若い私をご自身のご子息と重ね合わせ、大変親切にして下さったお客様等、数え上げたら枚挙の暇もなく、多くのお客様の「ありがとう」が私のモチベーションへと変わりました。

入社して15年の頃、私は九州に赴任しておりました。役職にも就き、任されているチームの業績も上々でした。その頃、ふと「海外で仕事をしたいな」と思うようになりました。尊敬していた当時の社長の影響か、神の啓示か、そんな事を考えるようになりました。

弊社では年に1回、希望の職種や勤務地や個人的な事情等を会社に伝える事が出来ます。その年、初めて「海外勤務を希望する」の項目に○を付けました。間もなく、当時の国際事業部担当の役員から「ブラジルに行かないか」と電話があり、二つ返事で了承、彼の地に赴任し、2年半メンテナンス事業を立ち上げ、その後、現在の勤務地であるメキシコへと赴任しました。

私は元々理科が苦手な文系を選んだ身ですので、お客様への説明には今でも大変苦勞をしています。今でも自分はメンテナンスに向いていないと思っています(笑)。

## メキシコはどんな国?

それでは、任地のメキシコについてご紹介させていただきます。メキシコは、北アメリカ大陸の南部に位置し、公用語はスペイン語、首都はメキシコシティです。メキシコシティと日本の時差は通常15時間(サマータイム時14時間)、国土面積は日本の5倍で、人口は日本とほぼ同じ約1億2800万人です。メキシコシティは標高が2200mという高地にあり、石鎚山より高いのです。

メキシコでイメージされるのは、サボテン、テキーラ、ミル・マスカラス、陽気なメキシカンといったところでしょうか。確かにサボテンは至る所に生えていますし、多くの方がテキーラを飲み、プロレスが盛んで多くのマスクマンが存在し、メキシコ人は概ね陽気です。しかし、メキシコは、こ

これらのイメージより遥かに魅力に包まれた国です。

まず、メキシコには34もの世界遺産があります（日本の世界遺産の数は22）。メキシコはマヤ文明、アステカ文明といった原住民発祥のもの、スペイン統治時代に建設された教会や街並み、2つの文化が融合して出来たものが世界遺産として認定されています。さらにメキシコには美しい民芸品が沢山あり、特に女性好みのカラフルで可愛らしいデザインの手工芸品は、日本円で10円、20円のものから数十万円するものまで様々です。これらの民芸品を通して、メキシコ人の手先の器用さを感じさせられます。

原住民族発祥の世界遺産として、いくつかのピラミッドが挙げられます。ピラミッドというとエジプトのイメージだと思いますが、メキシコには古代マヤ文明やアステカ文明時代のものとされるピラミッドが多数現存しており、未発見のものも有り、つい2年程前にも、最大規模のものが発見されました。メキシコシティの近くには、登る事が出来るものも有ります。

メキシコへは成田空港から直行便が出ており、ペルーのマチュピチュ遺跡よりも行き易く費用も安い、メキシコ旅行を是非お勧めします。

## 5人でメキシコ全土をカバー

私は日本で15年、海外で5年業務を遂行しており、外から見た日本は、何と美しく繊細で、人の気持ちを思い遣る事が出来る国であるか、と感じます。海外で生活しておりますと、注文した物や人が期日に来ない、来ても梱包や中身が壊れている、「少々お待ち下さい」が1日、ひどい時は1週間、もっと悪いと放置されてしまうといった事が日常茶飯事です。しかし、半年から1年が経つと、慣れや諦めが生じ、歯痒い思いも沢山しましたが、不思議と腹が立たなくなりました。現在は色々な経験を通じて、故障不具合が何故起こるのか、理由やメカニズムを考察する事が出来るようになりました。

弊社は、全都道府県に事務所を構え、メンテナンス員は全国で約1000名おります。しかし、メキシコでは、現在たった5人で、メキシコ全土をカバーしています。少数のメンテ員でどのように顧客満足度を上げるか？という事が、メキシコ

における私の最大の課題です。

今、大学時代に学んだ事が生きています。私は「アセアン経済の成長と今後の課題」というテーマで卒業論文を書きました。メキシコという国はアセアン同様新興国で、当時のアセアンの状況とよく似ていると感じます。

日本は、高度経済成長期の1964年にオリンピックが開催され、メキシコは1968年でした。オリンピック後の東京とメキシコを比べると非常に残念なメキシコですが、近い将来、先進国の一員になる事が私の望みです。

ビジネスを成功させる為の企画を立て、成功の為の具体策を掲げ、予算を組み、具体策や予算の見直しをする。現在の業務は、若い頃に比べると非常に頭を使い、責任も重く、大変疲れます。しかし、大学時代の活動や経験が大きく役立っており、とてもやり甲斐が有ります。

私の今のテーマは、「労働生産性の高いメンテナンスビジネスの仕組み作り」です。現在はまだ30%程度の達成率ですが、私がメキシコ駐在の間に90%以上達成出来るよう、日々励んでおります。

社内では、メキシコ発信で、新しいビジネスモデルを提案し、より世界に広がって行く企画作りに励みます。

最後に、大学には、今の学生達が松山という小さな町に居ながら、世界に目を向け、世界を肌で感じられるような指導や企画をお願いしたいと思っています。



メキシコでお客様と

# 大手メーカーの人財開発部長として

三浦工業株式会社 谷水 恭子  
(1983年 文学科卒)



在学当時は、「文学科 英語英米文学主専攻」というクラスで、イギリス文学を選択しました。英語と文学が好きだったので、希望通りのクラスに入ることが出来て嬉しかったのを覚えています。イギリス文学を勉強するうちにイギリスに興味を湧き、卒業旅行では初めての海外旅行でしたが、同じイギリス文学専攻の友人と2人で1ヶ月ほどイギリス文学に関わりのある土地を巡りました。往復の航空券だけ持って渡英し、ホテルも移動も行き当たりばったりで、今思えばよく無事に帰ってこられたと思いますが、学生時代最後の良い思い出となりました。

卒業後は、松山市内に本社があるボイラメーカーに就職しました。正直なところ、ボイラが何か、どんな仕事をするのかわからないまま入社試験を受けましたが、合格して「海外事業部」に配属されました。英語を使う仕事が出来ると喜んだのも束の間、現実的には、大学で勉強した英語と、仕事で求められる英語はまったく別で、特に大学の授業にほとんどなかった英会話で苦労しました。英文科＝英語ペラペラという世間の認識とのギャップに悩みながら、英語の勉強は好きで続けました。恐らく、会社に入ってからのの方がたくさん勉強したと思います。

その後いくつか部署を変わり、現在は「人財開発部」の部長として、採用、教育、ダイバーシティ推進などの業務に携わっています。特に女性活躍推進に力を入れており、多くの文系の女性社員がボイラメーカーでどのように活躍の場を広げるかをテーマに活動しています。10年ほど取り組みを続け、漸く世間から評価されるようになり、賞をいただくこともできました。私が入社したのは、ちょうど男女雇用機会均等法が施行された年でしたが、当時と比較すると女性の働き方は大きく変わりました。私が就職する頃は、女性は3年働けばよいと言われていましたが、近年は採用面接でほとんどの学生さんが「定年まで働きたい」と言われます。私自身、こんなに長く勤めるとは思ってもいませんでしたし、女性が部長になるなど考えもしませんでした。

社内では愛媛大学出身の社員約450名が国内外で活躍しています。今年度は20名の新入社員が仲間入りしました。学生さんへの就職説明会では、コミュニケーションがとれる人、自立した人を求めているという話をしています。まさに「愛大学生コンピテンシー」に謳われていることです。新入社員の中には留学生の方もいらっしゃいます。大学に協力をお願いし、留学生と社員が英語でディスカッションする研修を実施しました。留学生には日本の企業を知っていただき、社員には身近に異文化を体験できるよい機会になったと思います。その他にも聴覚に障がいのある社員が、職場でコミュニケーションが取れるよう、大学で活用しているシステムをご紹介いただいて社内を導入し、聴覚障がい者も会議等に参加できるようになりました。また、教育学部の先生にお願いして、社員の健康促進のための『5歳若返りプログラム』という運動プログラムを作っていただいたこともあります。先生やゼミの学生さんに会社の体育館で、ストレッチや筋トレの指導をしていただきました。私自身も同窓会提供講座で、製造会社で働くことについてお話をさせていただいたこともあります。このように様々な分野で大学にはお世話になっています。

個人的には、大学時代にご指導いただいた先生とは、ずっと年賀状のやり取りが続いています。少し前にも詩集を出版され、送って下さいました。大学に在籍したのは4年間だけですが、その間に知り合った方々とはよいお付き合いをさせていただいています。

現在の業務を担当するようになって、再び大学との接点が増えたのは嬉しいです。久しぶりに母校を訪問して、学内が様変わりしていたのに驚きました。新しい建物がいくつも出来たからでしょうか。私が在籍していたころ新築だった法文学部の新館がすっかり古くなるのをみて、30年経ったんだなあと改めて歳月の流れを感じました。これからも機会を見つけて大学を訪れ、気分だけでも大学生に戻ってみたいと思います。

# 退職された教員の方々

- ① 愛媛大学にいられた年
- ② 所属の学部・講座
- ③ 研究・専門について

## 加藤好文先生

- ① 1986(昭和61)年
- ② 法文学部人文学講座
- ③ アメリカ文学・文化

**出生地** 愛媛県西予市  
**最終学歴** 広島大学大学院文学研究科博士課程後期  
英語・英米文学専攻退学  
**学位・称号** 修士(文学)  
**所属学会** 日本英文学会、日本アメリカ文学会、日本  
ジョン・スタインベック協会など



大学教員生活38年のうち、旧教養部で10年と法文学部で22年の32年間に亘って愛媛大学にお世話になりました。学生としても昭和46年から学部4年と専攻科1年の5年在籍していましたので、愛媛大学にはこれまで37年間通ったこととなります。

愛媛大学に入学した当時、キャンパスには空き地が広がり建物は少なかったのですが、かつての兵舎を再利用したバラックの購買部(中には散髪屋さんもありました)や木造2階建ての第2食堂などは今でも懐かしい思い出になっています。もちろん現在の法文本館はなく、今の図書館の3階と4階に先生方の研究室や、分野ごとに学生の溜まり場(私たちは「英文・独文合同資料室」)がありました。因みに、当時の法文学部1学年の学生定員は法学科100名・文学科60名で、授業料は何と年間1万2千円でした! 全体的に質素でコンパクトな分、個人の時間はふんだんにあり、一方で学年や分野の壁を超えた繋がりも濃く、先生方にも遠慮なく教えを請いに研究室にお邪魔していました。

それに比べて現在は建物がびっしりと立ち並び、かつて聳えていた高い樹木は切り倒され、鬱蒼とした草地なども取り払われ、キャンパス全体がずいぶん明るく綺麗に整備されました。全てが白日の下に晒されているようで、私などは少し居心地の悪さを覚えています。学生が「スマート」になった感がありますが、一方で学生間の繋がりが希薄になり、いい意味での「粘っこさ」や「こだわり」などが弱くなっているのではないかと危惧します。何か目標を見定め、こだわりを持って粘っこく追い求める姿勢も忘れないでほしいと思います。

いずれにしても、愛媛大学での教員生活を通じて、興味本位にアメリカ各地を訪ねることができ、また学内外の諸活動を通して貴重な経験を積ませていただき、そして何よりも、多くの素晴らしい学生諸君と出会ったことに感謝申し上げます。最後に、法文学部創立50周年を迎えた今、同窓会共々、ますますの発展をお祈りいたします。



## 立川信子先生

- ① 1991(平成3)年
- ② 法文学部人文学講座
- ③ フランス文学・文化

**出生地** 京都  
**最終学歴** 大阪大学大学院文学研究科博士課程単位  
取得退学、パリ第四ソルボンヌ大学フラン  
ス文学DEA課程修了、パリ第三ソル  
ボンヌ大学フランス語教育DDL課程修了  
**学位・称号** 修士(文学) DEA(フランス文学専門課程)  
**所属学会** 日本フランス語フランス文学会

愛媛大学で30年ほど勤務しフランス言語文化を担当しました。私が大学生だった頃のフランスは、サルトルやカミュの実存主義、新小説、バルトなど新批評、ミッシェル・フーコー、ブルデューと文学、哲学、社会学などで斬新な研究に魅了されました。愛媛大学の卒業生は大学院へ進学、企業に就職とさまざまな進路を選びますので、大学の授業では研究者のための専門教育だけでなく、卒業後も役に立つ教育の観点から次の点を重視しました。

まず、特に留学中、フランスと日本のさまざまな違いを感じましたので、多角的な視点を養うために、フランスのニュースなどを使ってフランスから見た世界、社会問題などへのフランスの対応の仕方を理解して、日本的思考を相対化することができるようになること。次に、本を読む習慣がない学生が増えたので、文学作品・文化事象全体を読解する経験をもつこと。できればそれに感動する機会をもつこと。最後に、フランスの教育が常に重視している論理的に自分の考えを述べる技術を身につけること。

フランスは世界一の観光国であるだけでなく、フランス語・文化を国際語・文化として普及させることに力を入れて、多くの留学生や移民がおり、大学には充実した語学教育機関が付属しているのが一般的で、個人で留学することも難しくはありません。ワーキングホリデーや留学をする学生、海外で働いている卒業生もいます。フランス人の先生が引率される提携校ディジョン大学短期研修に参加して刺激を受ける学生も多いです。

美しい多島海の瀬戸内海を望む大学で元気いっぱい  
の学生に出会い、多様なテーマの卒論指導は興味深かつ  
たです。文学作品研究、食文化の表現、キリスト教の  
表象、ナチス占領下のフランス人のような歴史・文化史  
的研究、美術論など個性豊かでした。皆さん今後も元  
気でおすごしくくださいますように。退職後も文化に関  
わる仕事を続けていきたいと思っています。

# 理事会報告

## 2017年度 第2回(通算第72回)理事会

日 時：2017年10月13日(金) 18:00～21:00  
場 所：愛媛大学校友会館2階サロン  
出席者：26名

### 【報告事項】

- 第8回ホームカミングデイについて
- 第21号同窓会報発行
- 2017年度法文学部同窓会提供講座「社会と人間」
- 支部活動・支部長会など報告と予定
- 大学関係行事、会長会・校友会理事会報告
- 寄付について
- その他
  - 法文学部創立50周年記念行事について
  - 理事の交代、事務局体制の変更について
  - 同窓会会員簿発行についてのアンケート中間報告について

### 【審議事項】

- 来年度(第15回)総会について  
法文学部創立50周年記念式典と同じ日に開催し、費用負担の問題等は今後検討していく。 → 承認されました。

## 2017年度 第3回(通算第73回)理事会

日 時：2018年2月9日(金) 18:00～21:00  
場 所：すし丸本店(松山市二番町2丁目3-2)  
出席者：25名

### 【報告事項】

- 2017年度同窓会提供講座「社会と人間」
- 2018年度会報編集委員会スタート
- 支部活動・支部長会など報告と予定
- 大学関係行事、会長会・校友会理事会報告と予定
- 寄付について
- 会員名簿発行についてのアンケート調査結果について
- 事務局体制の変更について
- 2017年度決算(暫定)について
- 第15回総会について

### 【審議事項】

- 法文学部50周年記念行事等への協力について  
学部長から、不足する費用の援助について協力依頼がありました。  
→ 同窓会から学部へ200万円を寄付することが承認されました。
- 2018年度予算案について → 承認されました。

## 2018年度 第1回(通算第74回)理事会

日 時：2018年6月8日(金) 18:00～21:00  
場 所：愛媛大学校友会館2階サロン  
出席者：25名

### 【報告事項】

- 第22号会報編集委員会報告
- 2018年度同窓会提供講座「社会と人間」
- 支部活動・支部長会など報告と予定
- 大学関係行事報告、会長会・校友会理事会など予定
- 同窓会 会員数報告

2017年9月卒業生	学部生	19	
2018年3月末卒業生	学部生	522	

【内訳】	(男)	(女)	(計)
総合政策学科	166	167	333
人文社会科学	54	135	189
総計	220	302	522

### 【総計】

文理学部19年(1953～1971年) 2,222

法文学部47年(1972～2018年)	19,478	計21,700	
2018年4月 法文学部入学者数	学部計 411		
【内訳】	(男)	(女)	(計)
人文社会科学(昼)	122	170	292
人文社会科学(夜)	49	49	98
総計	171	219	390
3年次編入	13	8	21
法文学部研究科	5	8	13

- 次期三役・理事について

### 【審議事項】

- 2019年度法文学部同窓会寄付科目・提供講座の開講について  
→ 承認されました。
- 法文学部への寄付について  
法文学部学生の国際交流に資するため、2018年度も引き続き100万円を寄付願いたいとの要望がきています。  
→ 承認されました。
- 第15回本部総会の日程について → 承認されました。
- 2017年度決算・監査報告および承認
  - 収入911万2,629円(予算803万2,000円、昨年度792万3,840円)に対し、支出915万8,692円(予算771万2,800円、昨年度756万5,720円)となり、4万6,063円の赤字となっています(昨年度35万8,120円の黒字)。手違いで、寄付金から支出するべき23万7,600円の支出があったため、これを除くと19万1,537円の黒字となっています。
  - 支出の内訳では、事務局手当97万円、法文学部事務謝金5万円、交通費27万2,240円、三役会議・理事会・監査経費40万2,909円、新卒業生31万8,900円、支部活動費175万4,654円、会報発行経費319万7,353円、事務経費67万6,488円、学部学生就職支援38万5,450円、渉外活動費2万4,000円、雑費8万5,466円、予備費2万1,232円、愛媛大学基金への寄付100万円の計915万8,692円で、予算に対して144万5,892円多くなっています。
  - 5月8日(火)に、畠中監事・吉岡監事により監査を行いました。 → 承認されました。
- 2018年度予算案(再提案)  
収入は、会員からの寄付金100万円と、昨年度、寄付金から支出し忘れた23万7,600円を繰り入れ、935万円程度が見込まれます。支出については、ほぼ昨年度の額を踏襲しています。会報発行経費は、宅配送料の値上げに伴い300万円を超える見通しで、合計で320万円台の予算にしています。大学への寄付100万円と法文学部50周年記念行事への寄付200万円を除けば、全体としては目標の800万円以内である789万円に抑えた予算としています。 → 承認されました。
- 2018年度の事業計画
  - 同窓会報は、同窓会員への大学・学部・同窓会活動の紹介や会員相互の情報交換の場として、毎年1回発行します。同時にホームページの充実を図ります。
  - 支部活動の活性化を重視し、本部・支部間の交流および支部総会への出席者を増やすための対策を検討します。
  - 12年目を迎える「提供講座」を充実させるとともに、学生の就職活動に対応したサポートができるよう、現役学生との繋がりを広げます。
  - 会員からの寄付を原資として、同窓会活動をより活性化し、法文学部学生支援事業を充実させます。
  - 同窓会名簿の精度を高め、2019年度の名簿発行の準備を進めます。
  - 日常の活動強化の基本となる、明るく活発で民主的な理事運営に努めます。 → 承認されました。
- 同窓会名簿について  
2002年12月以来、発行されていない同窓会会員名簿(冊子)について、慎重に検討を重ねた結果、専門業者に外注して発行することを提案します。 → 承認されました。
- その他  
同窓会のホームページをリニューアルしたいと考えます。 → 承認されました。

# 同期会 秋の京都で2年ぶりの再開

1967（昭和42）年3月 文理学部人文学科（乙）卒業

## 有朋自遠方来不亦楽

1967（昭和42）年3月文理学部人文学科（乙）卒業生13名（法学専攻8名、経済学専攻5名）が卒業後50年記念の年に、2年ぶりの第4回同期会を2017（平成29）年11月8～9日、秋たけなわの京都で開催しました。

我々の同期生は83名（法学37、経済学46）おり、その中で既に幽世の世界に旅立った友は10名（法学4名、経済学6名）を数えています。

今回出席できなかった同期生は、自分自身が体調不良であるというほか、家族の介護で外泊できないという人も多々あり、本人自身はもとより、家族の健康が第一という教訓を思い起こさせました。

初日は京都駅に集合し、東山蹴上のウエスティン都ホテル京都で食事し、その後、南禅寺、永観堂を散策。平日にも拘らず外国人をはじめとして観光客が多く、京都の知名度に納得させられました。

次にこの地からすぐ近くにある哲学の道を物思いにふけりながら歩き、今日の宿の修学院さら山荘に向かいました。ここはもともと関西セミナーハウスといって基本的には研修場所であるものの、宿泊も可能で、近くには修学院離宮、曼殊院があり、夕食前にはライトアップされた曼殊院を拝観しました。

夕食の京料理のご馳走に舌鼓を打ちながら、適度にアルコールも入り、今回参加の同期生から近況や健康



京都で開催された同期会



南禅寺三門

維持方法、家族のことなど披露して貰い、教えられることも多々あり、有意義な懇親会でした。

翌日は京都御苑の中にある京都迎賓館を見学。ここは平安遷都1200年を記念して建てられた入母屋屋根と数寄屋造りで築地塀を巡らせた品格のある和風の佇まいの建屋で、2005年竣工、昨年7月から一般公開された、海外からの賓客接待場所を見学し、貴重な体験をすることができました。

京都迎賓館見学後、二条城近くまで歩き、近くの京料理店で昼食を取り、次回は2年後に松山およびその近辺に在住する同期生が幹事となって、第5回同期会を開くことを決めて、それまでお互い健康で日々を送るよう祈念し、三々五々解散しました。次回の同期会は是非今回以上の参加者が集まるよう期待しております。

世話役代表 岡田謙二



京都迎賓館

# 50周年を記念して大学に絵画を寄贈

1968（昭和43）年3月 文理学部人文学科（乙）卒業



吉田正弘愛媛大学法文部長を囲んで（平成30年5月16日、愛媛大学法文学部長室）

去る平成30（2018）年5月16日に松山全日空ホテルにおいて愛媛大学文理学部人文学科乙昭和43年卒50周年記念同期会を開催しました。

前は広島において古希の同期会を開催してのち2年半ぶりです。今回は50周年記念ということで、ただ集まるだけではなく記念になることをいろいろと考えた末、自分達が実業界をはじめそれぞれの分野で頑張ってきたこと、企業戦士卒業後も頑張っているのは「愛媛大学の卒業生としての誇りがあるから」だと考え、50周年の記念として大学に絵画を贈ることに決めました。

同期生の中に菅省三君があり、彼は34歳の時、初めて愛媛県展に入選し、以降平成7年まで連続入選、うち2度は特選に入り、現在は松山市内でギャラリーを主宰しています。そのような彼の絵画ならば昭和43年卒業生の贈呈する絵画として一番ふさわしいと考え、彼の絵画「薔薇」に決定しました。

このような目的を持って半年前より準備に入り、57名のメンバーに案内状を送り、最終的に16名の懇親会参加、更にメンバー自身の体調不良や家族の介護等で懇親会には参加できないが絵画贈呈の趣旨には賛同するという申し出が15名あり、合わせて31名の気持ちを絵画にこめて大学に贈呈することになりました。

学部長室で吉田正弘法文学部長に絵画の贈呈式を行い、贈呈式終了後、愛大ミュージアム等学内を散策しました。その後、電車に乗り持田に行ってみようということになり、附属中学校講堂

「章光堂」を久しぶりに見学してきました。章光堂は入学式を行った場所であり、何人かはここで「入試」を受けた経験もあり、本当に懐かしく天井や階段あたりが昔を思い起こさせてくれました。

懇親会は午後6時より松山全日空ホテルで開催しました。参加者が16名と57名の案内の割に寂しいものになりましたが、そこは文乙昭和43年卒業生、学歌や寮歌を歌い、大いに盛り上がりました。

今回の絵画の寄贈は文乙昭和43年卒の団結力の表れで、1回生の12月に文乙主催のダンスパーティーを企画し、皆でパーティー券を売りまわった時のことを思い起こさせました。50周年記念同期会は絵画寄贈を通して「文乙魂健在なり」を確認することにもなり、充実感を味わいながら学生時代を思い出し、松山を懐かしく楽しむ一日となりました。

廣嶋 守



同期で愛媛県芸術会員の菅省三氏の作品「薔薇」を贈呈



松山全日空ホテルで卒業50周年記念同期会を開催

## 1985年卒業 渡部 雅泰

[経済学科]

1980年に法文学部経済学科が創設され、僕は一期生として入学した。女子は15%位で、野郎達が溢れていた。愛大フォークソング愛好会に入部。サークルには人生の執行猶予を楽しむかのように、半年休学しアメリカをグレイハウンドバスで廻った旅男や、青春を初食いするかのように音楽を楽しんで留年している先輩がゴロゴロいた。時間がゆるやかに流れていた。フォークギターがエレキギターに変わり、古いモノが、新しいモノに変わる潮目の高揚感に満ちていた。

法文学部同窓会の提供講座の非常勤講師として登壇し、学生を見渡すと女子学生が多い。どこかしらおとなしい感じはするもののキラキラした視線が飛んできて、数十年前の僕が同期してくる。みんな、就職ということに興味津々。そして講話で人気なのは、「人生は金か」という話だった。

「学生時代になんのバイトをしましたか」というより、「学生時代にバイトをして、その儲けた金を何に使いましたか」に僕は興味がある。「人生は金だ」と、あからさまに言う人の方が、人としての魅力を感じてしまう。こういう話に学生は敏感に、目が爛々となる。

僕達の当時のサークルの仲間達は、みんな必死でバイトして、その儲けた金で憧れのGibsonやFenderの高級楽器を買った。まるで夜空に高々と打ち上げられる花火のように、この世ならざる美しさを放った。人生の意味なんてわからないけど、野心の極み、理想の極みのようなモノを手に入れるため、何かを我慢する。自分の憧れたもののために、お金を使う。その行為こそが、青春の第一歩のような気がする。執着心こそが人生の輪郭をくっきりさせてくれる。ありがたいことに、そういうことを大学時代に仲間と自然に学んだ。こういうワクチンを何本も打てるのが、大学時代の面白いところだと思うんだけど、どうだろう。恋愛のワクチンも必要ですよ（笑）。

卒業してから愛大フォークソングOB会を4年に1回オリンピックの年に開催している。LIVEハウスで大学時代やっていたオリジナル曲を演奏する。全国から集まる仲間の笑顔は永遠というものをプレゼントしてくれた。大学時代の仲間は、永遠の宝物だ。

大学を卒業し、旅行会社に就職。1ドルが230円だった。100回くらい海外添乗もした。1995年WINDOWS95が発売され、ラスベガスでCOMDEXという見本市をみた。YAHOO!がその中の一つのブースにあって、それを孫さんが見つけたと何かで読んだことがある。会場は百人組手のような熱気にあふれ、その渦に飲まれていった。ワープロで両手の人差し指でしか文字が打てない僕は、あの興奮の鼻腔の匂いを忘れられず、どこから手をつけていいかわからないITの世界に飛び



ニューヨークパッテリーパーク、遠くに自由の女神

込んで、2000年IT会社を機一つで起業した。

あれから18年、ITバブルも経験したし、リーマンショックで取引先の倒産で谷底にも落とされた。旅行会社にずっといれば、それなりに楽しかったかも知れない。ただ、たった一度の人生を、アクセルを踏まずに死にたくはなかった。そんな憂鬱と卑屈の二本足でも歩行できるのは不思議だった。数々の選択を誤り、浅いところで折り合おうとして、失敗してきた人生だったと思う。それでもチャレンジという道の途中で、星になりたい。

50歳を過ぎると、チャレンジを忘れてくる。そんな時に、僕が僕であるために立ち上がる事ができるのは、やはり大学時代の思い出のおかげだ。友達の下宿で安酒を飲み、平和通りの天ぷら屋で買った、じゃがいもと、クジラの天ぷらで朝まで語っていた。金はなかった。自由な時間は足元に転がっていた。仲間と、音楽があれば満ちたりていた。僕は「大学時代の思い出」にどれだけ励まされただろう。根拠のない自信と勘は、大学時代に源泉があり今も枯渇することをしらない。



機一つでクレストデジタルズ(株)を起業

2016年四国お遍路を結願した。煩惱は消えることなどない、ますますアメンバーのように増殖した。人生は出会いでできていると教えてくれた。ご縁だけが24色のパレットのようなグラディエーションを与えてくれる。僕は、法文学部の同窓会の理事をしている。理事会で母校を年に数回訪れる。不思議なモノで、大学を訪れると、あちこちであの頃の僕が、僕を立ち上がらせてくれる。同窓生の皆さん、たまには母校を訪れてみませんか。ありがとうございました。「生涯青春」

おたよりお待ちしています。

〒790-8577

松山市文京町3番 愛媛大学法文学部内

愛媛大学法文学部同窓会

E-mail : support@ehime-u-houbun-dousoukai.com

## 2002年卒業 大塚 英俊

[総合政策学科]

現在、私は地元である松山市で、幼少の頃からの夢であった、消防士として働いております。1人の力では人を助けることができないような、困難な災害であっても、仲間と協力し乗り越えていく、そんな、とてもやりがいのある仕事です。

さて、私の大学生活はというと、高校卒業後、2年間、松山短期大学で学び、編入学で愛媛大学法文学部総合政策学科(夜間主)に入学し、そこから3年間在学していました。あまり大きな声で言えることではありませんが、せっかくのありがたい講義だったはずなのに、真面目に聞いた記憶がありません。とても貴重な“学べる場”にいることに気づかず、もったいなく、とても残念な大学生活だったと思いますし、自分の息子が同じような大学生活を送っていたら、きっと、怒鳴り散らすと思います。

では、そんな私がどんな生活を送っていたかというと、毎日、大学には通っていましたが、ただし、教室に入るのではなく、法文学部前の“中庭”で時間を過ごしていたのです。夜間主でしたので、夕方が近づくと、自然と体が学校に向かい、中庭のベンチに座り、友達が来るのを待っていました。そして、たわいもない話をしたり、夕飯を食べに行ったり、たまにはお酒を飲んでみたりして。こんな調子だから、3年次編入学なので2年で卒業できるはずが、卒業に3年間かかってしまっています。今となっては、何をしていたんだって思う部分が多いですが、人生として考えると、ま、あの日々も良い時間だったなと思ったりもします。当時、中庭で一緒にすごした仲間達とは全国ちりぢりにはなってしまいましたが、“LINE”で、“愛大中庭部”というグループを作って連絡をとっており、今では、何物にも代え難い大事な宝物となっています。こんな大切なものを作ってくれた『愛媛大学 法文学部』に大きな声でお礼を言いたい。



仲間とツーリング

また、バイクでツーリングに行くという趣味ができました。仲間と一緒に地図を片手に計画を立て、バイクに乗り、旅に出て、テントを設営し、自炊をする。ツーリ



ツーリングの夜はキャンプで乾杯

ング中に台風直撃された時は、大雨にうたれて、夏なのに、寒くて、寒くて、うずくまっていたところを、地元の親切な人に声をかけてもらい、空いている部屋に泊めていただいたりと、今振り返ると、本当に、青春真っ只中だったと思います。

アルバイトもたくさんしました。クリスマスケーキ作りや、コンビニ店員、スーパーの開店準備、ゲーム販売、携帯販売、ごみ収集、エアコン取付、カラオケ店員、伊予柑狩り、ETC普及チラシ配り、居酒屋店員などなど。多くの職種にアルバイトという形で接することができ、たくさんの人に出会い、社会に出る前に、少し世界が広がった気がします。

このように、学生時代を振り返ってみますと、好きなことばかりやって、とても充実していたような、逆に言えばスカスカだったような5年間でした。しかし、この期間が私の人生の糧になっている事は間違いありません。ちょっとしたことですが、仕事をするうえでも、過去の経験が活かしている時もあります。となると、私という人間が構築されるうえで、大事な、大切な時間だったんだな。それに、今、昔を思い出しながらこの文章を書いています。ふと我に帰るとニヤケている自分がいます。これから先10年20年後も、同じ顔で昔を思い出していると思います。

楽しかったな。愛大。

ありがとう。中庭。



中庭の仲間とは今でもキャンプで再会

# 同窓会 提供講座 『社会と人間』

2007（平成19）年にスタートした同窓会提供講座も11年目を迎え、計179名（複数回含む）の講師の方にご登壇いただきました。

今年度は毎週水曜の第5限目に開催し、クォーター制の導入により、第3期と第4期にまたがって全16回、21名の講師にご協力いただきました。2018年2月7日（水）にはお手伝いをしていただいた学生に小池会長から感謝状を贈呈し、講師陣を交えて反省会・懇親会を行いました。



## 学生アンケート結果

### 満足度

- 大変満足している 37.6%
  - 普段聞けない社会人の先生の話の聞くことができた・法文学部から様々な職業に就いていることがわかった
- やや満足している 56.4%
  - 大学生のうちにしておくべきことを知ることができた・就活に役立った
- 若干不満足である 5.0%
  - 興味のない業界が多かった・県外の講師がいなかった
- 不満足である 1.0%
  - 無回答

### 印象に残っている言葉・影響されたこと

- 旅行に行くべき／好きなことや興味のあることを見つける／無駄なことを積み重ねないと人生は楽しくない／読書をしなさい／学生時代は金はないが時間はある／恋愛すべし／己を知ること など

回	テーマ	担当日	担当講師名	卒業年・学科
1	ガイダンス	10/4	小池 昭彦 久保 泰敏	1970・文経 1974・法
2	経営者として挑戦	10/11	大藪 崇	2002・総政
3	出版業界で働く	10/18	竹内健太郎	2016・総政
4	小売業界で働く	10/25	本川 尚美 中村 麻衣	2009・総政 2016・総政
5	起業家として挑戦	11/1	芳野 裕士	2000・総政
6	県職員として働く	11/8	和氣 吉宏 中原 載子	1998・法 2012・総政
7	金融業界で働く	11/15	日野 和行 児玉 菜月	2005・総政 2016・人文
8	刀匠という仕事	11/22	小島潤一朗	2014・人文
9	連続履修への案内	12/6	西 耕生	法文学部担当教授
10	教育の現場で働く	12/13	熊谷 広行 近藤 梨嘉	2001・文院 1983・法
11	警察・消防で働く	12/20	大塚 英俊	2003・総政
12	農業振興への挑戦	1/10	坂本 憲俊	1977・法
13	働く女性の現在	1/17	小林 美菜	2013・総政
14	報道業界で働く	1/24	松居 大輔 山本 茜	2005・総政 2014・総政
15	海外で地図と羅針盤を探そう	1/31	渡部 雅泰	1985・経済
16	まとめ	2/7	松本 長彦	1981・文哲

## 2018年度 提供講座・寄付科目開講のお知らせ

### ▶2018年度 法文学部提供講座 開講計画

回	テーマ	担当日	担当講師名	現職
1	ガイダンス	10/3	小池 昭彦 久保 泰敏	法文学部同窓会会長 元㈱フジ取締役 ㈱レディ薬局監査役 法文学部同窓会 事務局長 法文学部就職相談員
2	放送業界で働く	10/10	増原安希子 植田 竜一	㈱エフエム愛媛 販売事業部 MC、リポーター、ライター他 南海放送㈱ 報道制作局報道部 記者
3	働く女性の現在	10/17	林 沙織 一色 淑恵	㈱クリエアナプキ 松山支店 スタッフコーディネーター NPO法人ワークライフ・コラボ 事業コーディネーター
4	金融業界で働く	10/24	薬師寺正義 青野 友紀	㈱愛媛銀行 お客様サービス部 次長 ㈱愛媛銀行 船舶ファイナンス部 主任
5	起業家として挑戦	10/31	芳野 裕士	㈱ GOOD FIELD 社長
6	海外で地図と羅針盤を探そう	11/7	渡部 雅泰	クレストデジタルズ㈱ 代表取締役
7	小売業界で働く	11/14	家高 大幸 高野 陽子	㈱フジ エミフル松前 副支配人 ㈱レディ薬局 ビューティケアグループ ハイヤー
8	外国人として愛媛の企業へ入社	11/21	曾 于恬	星企画㈱ 第一営業部
9	連続履修への案内	12/5	藤江 啓子	法文学部教員（世話人）
10	商工会議所で働く	12/12	宇都宮陽一 渡邊久美子	松山商工会議所 地域振興部 地域振興課 課長 松山商工会議所 総合企画部 総合企画課 企画係長

回	テーマ	担当日	担当講師名	現職
11	教育の現場で働く	12/19	武田 文乃	松山市立南第二中学校 講師
12	芸能界で働く	1/9	谷尾 桜子	トライシグナル
13	市職員として働く	1/16	大西 孝史	松山市保険福祉部介護保険課 主査
14	製造業界で働く	1/23	谷水 恭子 小田原早彩	三浦工業㈱ 人材開発部 部長 三浦工業㈱ 人材開発部 人材教育課
15	IT業界で働く	1/30	伊藤 祐介 浜田じゅり	サイボウズ㈱ カスタマー本部 CS企画推進部 CSコーディネーター兼ローカルブランディング部 サイボウズ株式会社 カスタマー本部 ローカルブランディング部マネージャー
16	まとめ	2/6	松本 長彦	法文学部同窓会副会長 法文学部教授

### ▶2018年度 法文学部寄付科目 実施状況

学期	学科	科目名	時間割	担当教員
3Q	人文社会学科	登記関係法	月曜2限	岡田潤一郎（非常勤講師）
			木曜2限	末光 祐一（非常勤講師）
後学期	人文学科	伝統文化論	水曜3限	畑守 泰子（非常勤講師）
				張 栄順（非常勤講師）
3Q	人文社会学科	伝統文化論	水曜3限	畑守 泰子（非常勤講師）
4Q			張 栄順（非常勤講師）	

\* 同窓会員の方は聴講無料です。詳細は教育支援課法文学部チーム(TEL. 089-927-9220)までお問い合わせください。また同窓会ホームページ (<http://ehime-u-houbun-dousoukai.com>) でもご覧いただけます。

# 講師の方に感想をお聞きしました！

## 第11回「警察・消防で働く」

愛媛県警察本部 厚生課  
近藤 梨嘉



今回、「警察・消防で働く」をテーマに講義をさせていただきました。卒業生として就職してからの経験談等を行うことにより、学生一人ひとりが自分の今後の生き方について考える機会にほんの少しお役に立てれば幸いと思い、お話しをさせていただきました。

「働く女性に関して」、私が就職したころと比べると、いかに女性が社会進出しやすい時代になったか。またワークライフバランス制度で働きやすい環境が整ってきたか等、私の体験を通して話しました。女性の社会進出、地位向上は当たり前前の時代になりましたが、女性が結婚して仕事を続け、家事と育児を両立させることの大変さ。リスクの大きさ。リスクを背負ってでも自分が働くことの必要性、家族のサポートの大切さ等を考慮したうえで、頑張っしてほしいと伝えました。

また、今職場で問題になっている「後継者育成」について指導者と後継者の間で考え方に温度差があること。このことを理解したうえで、相手がどんな思いで指導しているのか、ほんの少しでも相手の立場になって考えることが必要ではないかとお話しさせていただきました。

学生の皆さんには、これからの自分の将来をしっかりと見据え、就職、結婚、子育て、介護等生き方について真剣に考えていただきたい。またこれからの日本を支えていくのは自分たちであるという自覚をもって頑張っていたほしいと思います。

今回、講義の機会をとおして、後輩たちと接することができ、若い人たちの貴重な意見も多数いただきました。私自身も人生を振り返る良い機会となり大変勉強になりました。

学生の皆様、関係者の皆様、非常勤講師という貴重な経験をさせていただいたことに感謝致します。

ありがとうございました。

## 第12回「農業振興への挑戦」

ほたる 代表  
坂本 憲俊



私に与えられたテーマは「農業振興への挑戦」。話の中身は「米と風景づくり」です。法文学部の学生さんには異質のテーマであることから、果たして受講生がいらっやるのか心配になりましたが、多数の方にご聴講いただき、沢山のコメントカードをいただきました。

あらためて読み返してみると、お一人お一人、思いのこもった感想が綴られていました。少し要点を紹介させていただきます。

「農業について」○農業を楽しみ、誇りある生き方は美しい。農業は素晴らしい ○農業に対するイメージが変わった。地域の持続につながる ○農業にかかわることは、地域や日本の現状を考えること。

「風景づくりについて」○米作りが美しい日本の風景を残すということにハッとした ○実際に情景を見て肌で感じたら言葉もなく涙してしまうだろう ○実家で米を作っている。美しい風景をつくっていることに誇り。

「米について」○お茶わん一杯の金額や農家の手取りの話に農業が身近になった ○体を作る若い世代が安いものばかり食べているようではダメ ○お茶わん1杯50円の米で、「まち」や「むら」が元気になる。

「生き方について」○夢や目標のある人生、物事の考え方、捉え方を学んだ ○全てにおいて美しくあることが格好良く生きるポイント ○柔軟な思考、生き方を大切に、教養を身に付けたい。等々。

紙面からは、若者が未知のものに出会った感動が少なからず伝わって来て、大切な時間を共有できたことに社会人講師としての意義と喜びを感じることができました。

今も昔も、若いも若きも、喜びや苦しみ、夢や悩みに生きる一人の人生。一期一会を大切に、共に励まし合いながら頑張っていきたいものです。

ありがとうございました。

## 受け継がれた！ 未来へ

変化の激しい昨今、身の回りから多くのものが消えてゆく。「断捨離」とか「終活」という言葉が市民権を得て、寂しくもあるが、一方で、新しく、力強い足音も…。

文理学部人文学科(甲) 国語国文学専攻(1966年)卒 廣田 章子

平成29年は松山市にとって「子規・漱石・極楽生誕150年」という大きな記念の年だった。

10月には『松山 子規事典』(松山子規会発行)なる大著が出版された。そんなニュースを聞くと、文理学部人文学科卒業の私には文理学部、法文学部の教授を歴任された和田茂樹先生が思い出される。勿論その事典には、初代子規記念博物館館長だった和田先生について本編(五十音順)の最後近くに出ている。その前の項はご子息の克司氏(大阪成蹊短期大学名誉教授)、後は同じく講談社刊『子規全集』の著者・渡部勝己氏である。

昭和56年、松山市立子規記念博物館ができた。その開館の日、早速出かけた私は、司馬遼太郎氏を案内する和田先生にお会いした。慌てて通路をあけ、お見送りした。司馬氏の白髪が美しかった。

今年1月の愛媛新聞に和田先生の蔵書を初めとする遺品の行方についての記事が出た。平成20年、先生が逝去され、以降ずっとずっと行方が気になっていた。記事によると先生の三男さんの依頼を受け、縁者に当たる古美術商小椋浩介氏が、松山市末町の宿泊施設「奥道後壺湯の守」に「湯の山文庫」として開設したのである。場所については「壺湯の守」の坪内社長の協力が大きな力となった。先生の自宅書斎書庫にあった、室町・鎌

倉時代から今日までの資料5万5千点を小椋氏が保存活用を目的に購入し、「奥道後壺湯の守」に保管、公開することになったのだ。

早速、同じ専攻の友人と開設記念展(1月20～31日)を訪ねた。膨大な資料のうち、今回は約600点で、江戸時代から現代までの文学や歴史関係の古書、子規ゆかりの人たちの書簡、道後温泉の資料等々。中でも、先生の学生時代のノートや、子規が在籍し、働いていた当時の新聞「日本」や、俳誌「ホトトギス」など、息をとめて見入る資料がいっぱいである。今後、定期的に入れ替えをし、公開してゆくそうである。何回も訪れて見なければならぬと強く思った。この場を借りて、国文の同窓会をしてみたいなとも思った。

先生は明治44(1911)年生まれでいらっしゃるから、私たちが接していた時分は、50代の前半だったのだ。今回の展示物に、京都第一中学時代の生徒たちの寄せ書きや手紙があり、先生のあだ名が「カップ先生」だったことを知った。また生徒の中に後に文芸評論家として活躍する粟津則夫氏の名も見つけた。人というものは、長い人生、それぞれの年代・場所で、様々な人と出会い、影響を与え、影響を受けていくのだなとしみじみ思った。

先生と子規とは切り離せない深い関係であるが、私たちが教えをうけたころは、連歌や民謡研究の方面でも活躍なさっていた。文庫に色々な編著の書物が並んでいるが、帰宅して我が書棚をみ



5万5千点にのぼる和田茂樹先生の膨大な資料から約600点が公開された湯の山文庫



第5回国民体育祭へのご臨席で愛媛県を訪れられた際に、松山市立子規記念博物館を訪問された皇太子殿下を案内される和田茂樹先生（平成2年10月20日、小椋浩介氏提供）

ると「大山祇神社 法楽連歌」（昭和52年刊）があった。展示を見ていると、先生の笑顔や、温かい語り口のお声が浮かんでくる。聴覚の記憶というのも消しがたいものだ。中でも伊予と土佐を結ぶ三坂峠を越える馬子の「三坂馬子歌」や、現在は愛南町となっている城辺町の「バラ抜き歌」（鯉節製造のため、ゆでたカツオの骨を抜く際の歌）、『體源抄』に収められた催馬樂「伊予の湯の湯桁」など。中世の能楽、狂言にも造詣が深く、「のう、のう太郎冠者」なんていう声も蘇ってくる。

先生とのご縁は卒業後も深く、たとえば先生が松山市教育委員会の「松山市民双書」中の『松山のむかし話—民話—』『松山のむかし話—伝説—』の監修を担当なさった時は、卒業生として資料を集め、書く作業をする一員として呼んでくださった。愛媛県出身でない私も、こうした作業を通じて、職に就いた愛媛県のことを習熟してゆき、貴重な体験となった。今改めて、感謝の念でいっぱいである。南海放送発行の『えほん えひめのむかしばなし』にも参画させてもらった。先生は、学生の在学時の専攻、就職先、年齢などを考慮に入れて、様々な研究、著作作業に参加させてくださったのだ。国文の卒業生は教職に就いた者が多かった。こうした作業で、先生の教え子が、世代を超えて結ばれたのだった。

そして昭和50年から53年にわたって出版された講談社の子規全集（全22巻別巻3巻）である。改めて巻末を開けてみると「著者 正岡子規」「編集代表 正岡忠三郎」とある。「正岡忠三郎」とは、妹・律の養子で、正岡家の後継者である。また、各巻巻末の「解題」には愛媛大学の和田先生、蒲池文雄先生、渡部勝己先生、そして先生ご子息の和田克司氏の名が並んでいる。

この著書を、著者割引で市価より少し安く買いませんかと、呼びかけがあり、私も早速申し込んだ。当時、特殊学校に勤務していた私は、大学の専攻とは違う方向で少しくさっていたのだが、大学の先生の研究室に顔をだせるのがうれしかった。学生当時の「学問」の匂いが感じられたから。こうしたことがその後、同じ高校の同僚2人とともに『いしぶみ子規』という本を出すことに繋がろうとは。高校生に「身近な句碑を訪ねてみよう」と課題を出したところ、碑に刻まれた毛筆による変体仮名が読めないと返事が返ってきた。そこで、最終的には全国に展開された子規の句碑、歌碑を訪ねて、解説を書くことになった。北は秋田県から、南は愛媛県まで。3人で手分けして全部を回った。平成14年のことだった。

今回、この稿を書くことになり、合計3回小椋氏にお目にかかった。3回目は5月19日松山子規会（会場・松山市末広町正宗禅寺）の場であった。「湯の山文庫」の開設までの経過、先生の遺品の概要を話され、子規関係の重要な資料の一覧を配布された。そのうえうれしいニュースを聞いた。

明治28年、子規は日清戦争の従軍から帰国し、悪化した体調を神戸・須磨で療養し、小康を得た。そして松山へ帰省し、当時松山中学で教鞭を執っていた夏目漱石の住まい・愚陀佛庵に転がり込む。昨日子規・漱石生誕150周年記念で二人の日々が「52days」というミュージカルになり、東温市の「坊っちゃん劇場」で上演された。

その愚陀佛庵は松山の空襲で焼失したが、子規博物館に1階部分が復元され、公開されている。また松山城南麓、一番町にある萬翠荘の奥に二階建てで復元されていたが、平成22年7月豪雨による土砂崩れで全壊した。この事故の以前からも愚陀佛庵があった場所（二番町三丁目＝現在駐車場）に復活の計画があり、何度か耳にしていた。が、いよいよ小椋氏の肝いりで、「民」の力で復活実現の青写真が描かれているという。

道後駅から北へ続く商店街の、西への道（熟田津の道）沿いにあった和田先生のお住まい（敷地300坪）が取り壊された。更地になり、中高層建築物が建つそうで、6月中旬、縄張りがされていた。

# 御寄付ありがとうございました。

(2018年6月末現在)

愛媛大学法文学部同窓会への寄付のご協力に心より御礼申し上げます。6月末時点までに御寄付いただきました方々への感謝の意を込めまして、ここに御芳名を掲載させていただきます。  
なお、御芳名の掲載については、同意をいただいた方のみとなっております。  
その他多数の皆様からの温かい御支援を頂戴し、深く感謝申し上げます。

## 愛媛大学法文学部同窓会へ御寄付いただきました皆様

- |  |  |  |   |  |   |   |  |  |  |   |   |   |  |  |  |  |   |  |  |   |  |   |   |  |   |   |  |                                |                                  |                                  |                                  |                                  |                         |                        |                        |                         |                                 |                                 |                                  |                         |                        |   |   |   |  |   |  |  |                                       |   |                                  |                                 |                                  |                                 |                         |                      |                         |                         |       |        |       |        |       |       |      |       |
|--|--|--|---|--|---|---|--|--|--|---|---|---|--|--|--|--|---|--|--|---|--|---|---|--|---|---|--|--------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|-------------------------|------------------------|------------------------|-------------------------|---------------------------------|---------------------------------|----------------------------------|-------------------------|------------------------|---|---|---|--|---|--|--|---------------------------------------|---|----------------------------------|---------------------------------|----------------------------------|---------------------------------|-------------------------|----------------------|-------------------------|-------------------------|-------|--------|-------|--------|-------|-------|------|-------|
| 青木 信哉<br>安藤あさみ<br>石川 陽子<br>井手 満<br>今村 威<br>宇都宮富夫<br>太田 敏郎<br>岡 武史<br>奥田 仁之 | 青野 純子<br>五百木洋子<br>石崎 雅弘<br>伊藤 眞平<br>岩佐 省三<br>宇都宮真由美<br>大西千鶴子<br>岡田 孝司<br>小倉 義博 | 青野 淑子<br>井川ちづ子<br>石住 勝憲<br>猪熊 兼年<br>岩崎 貴弘<br>遠藤 佳春<br>大西 盛美<br>岡村 麻美<br>越智 翼 | 赤瀬 晃也<br>池内 睦子<br>石住 泰子<br>井原 忠昭<br>岩崎美央子<br>塩谷 一夫<br>大野 美香<br>岡本 庸男<br>越智 照人 | 赤星 勝<br>池川 孝文<br>石田 知也<br>今井 愛子<br>上田 将輝<br>大岩 義雄<br>大野 充彦<br>小川 文也<br>小野 俊二 | 亀岡 謙治<br>石井 紀光<br>石橋 壯一<br>今井 忠<br>上野 善康<br>大島 敏子<br>大平 昇<br>尾川原寛次<br>小野 清二 | 秋山 久恵<br>石井 清司<br>石丸 喬朗<br>今井 路子<br>後川 統操<br>大島 政利<br>大森 貞夫<br>沖原 典子<br>小野 典子 | 荒井 源雄<br>石井 正雄<br>一色 岩雄<br>今永 修<br>内島 朝良<br>太田 重明<br>大山ヤスコ<br>奥田 幸男<br>恩地 芳榮 | 戒能 博樹<br>加藤 誠<br>亀岡佳奈美<br>貴田健一郎<br>清岡伊都子<br>久保 佳宏<br>黒田 彰三<br>小崎 弥生<br>小林 洋平 | 笠原 邦一<br>加藤 好文<br>亀岡 泰輔<br>北川 右二<br>楠本 淳<br>久保田 元<br>黒田 久治<br>兒玉 崇浩<br>五味 俊一 | 加治 久六<br>門田 悟<br>賀本 安彦<br>北澤 卓<br>國枝みつよ<br>熊石 康生<br>桑原 俊太郎<br>後藤 秀治 | 鹿島 勝<br>門田 仁<br>河合 審<br>北村 領通<br>國元 進<br>熊尾 昭彦<br>小池 珠希<br>後藤 希 | 片岡 修<br>兼久 良二<br>河越 巖<br>木下 洋一<br>久保 出美<br>熊谷 広行<br>河内 泉<br>後藤 幹郎 | 門 暁子<br>鎌田 孝史<br>川本 清治<br>木原 高治<br>久保チズエ<br>倉員 伸明<br>河内 康<br>小西 利枝 | 加藤 貴久<br>蒲池 正宏<br>神原 正俊<br>紀平 勉<br>久保 弘<br>蔵田 憲治<br>河野 純子<br>小島 泰造 | 加藤 直也<br>上谷 洋子<br>菊地 久男<br>刑部 八男<br>久保 泰敏<br>栗原 一彰<br>古原 正博<br>小林 紀子 | 斎院 朝隆<br>佐々木宏二<br>下向井敏明<br>白井 瞳<br>杉田 栄治 | 佐伯 弘行<br>佐々木 寿<br>篠原 保浩<br>白石 朋広<br>杉野 原史 | 坂田 せい<br>佐藤 公江<br>芝原 達雄<br>白石 隆<br>杉本 英智 | 坂田 隆<br>佐藤 興治<br>鳶川 武彦<br>白川 政意<br>鈴木 大輔 | 坂本 聡<br>佐藤 道夫<br>清水 秀一<br>治郎丸毅<br>須之内陽子 | 高須賀康生<br>高橋 寛<br>高橋 義和<br>武智 節子<br>田中 徹哉<br>寺澤 育秀<br>富永 育秀 | 高杉 晃吉<br>高橋 泰子<br>高橋 齊<br>田中 忠<br>寺島 衛<br>富永友佳子 | 坂元 陽介<br>直原 通治<br>清水富美枝<br>塩飽 義久<br>住田 啓子 | 坂和 守廣<br>茂川 卓司<br>清水 洋一<br>新谷めぐみ<br>園部 忠 | 高田 健作<br>高畑 章<br>立上 良典<br>田中 千加<br>寺地 雄二<br>豊島 邦彦 | 櫻井 邦彦<br>重川 剛<br>上甲 新平<br>進藤 晴紀<br>空井 孟 | 高田 恒夫<br>瀧本 悦子<br>田鶴谷寛子<br>谷岡 利弘<br>土井 明文<br>鳥生 勉哉 | 中 祥子<br>中村スミエ<br>西堀 英夫<br>乃万 哲 | 中居 憲吾<br>永森 芳和<br>西村 一嘉<br>野間 友紀 | 永井 迪子<br>成子 浩也<br>西村 佳純<br>野間麻由美 | 原 眞智子<br>平野 嘉成<br>藤川 和哉<br>本田 公子 | 中島 邦雄<br>西岡 倫弘<br>仁田 一也<br>乗松 眞二 | 仲田 和弘<br>西木戸賢治<br>二宮 隆雄 | 中西 龍太<br>西田 和眞<br>能島 俊 | 日野 恵一<br>不二 健<br>藤原 誠司 | 姫路 大覚<br>藤井 典宏<br>藤原 省三 | 馬場 聖樹<br>日山 里美<br>藤井 通子<br>藤原 剛 | 濱田 和子<br>日山 正人<br>藤岡 人格<br>保科 昇 | 林田 貴光<br>平田 篤資<br>藤岡 裕士<br>細川 陽平 | 張本 雅宣<br>廣田 文磨<br>藤田 育子 | 坂東 梅生<br>深坂 穰<br>藤田 正幸 | 日岡 潔<br>松久 元春<br>光田 正文<br>宮本 春美<br>森 春美 | 正岡 政美<br>松久 了<br>三ツ田めぐみ<br>宮脇 紀行<br>森岡 芳洋 | 松浦 泰史<br>松村 誠治<br>宮内 一夫<br>三好 邦夫<br>森貞 孝治 | 前田 繁一<br>松下 剛<br>松本 長彦<br>宮岡 実博<br>三好 博巳<br>森田 学 | 前田 高志<br>松島 稔<br>真鍋 總人<br>三宅 一夫<br>村上 和恵<br>森長 照博 | 前田 拓<br>松田 妙子<br>丸子 英明<br>宮下 佳生<br>村上 慎吾<br>森本 惇 | 正 博<br>松永 敏幸<br>三ツ浦 禮二郎<br>宮本 道機<br>森 健一 | 正 哲志<br>松永 徹<br>三ツ田詩織<br>宮本 忍<br>森 健一 | 正岡 潔<br>松久 元春<br>光田 正文<br>宮本 春美<br>森 春美 | 八木 博之<br>山内 恒幸<br>山根 勝美<br>吉岡 寿治 | 八坂 浩陸<br>山口 恭司<br>山本 和孝<br>吉田 滋 | 保田 和磨<br>山口 武雄<br>山本 重雄<br>吉野 史郎 | 安永 博邦<br>山口 信夫<br>山本 守<br>吉本 政弘 | 八東 誠二<br>山口美智留<br>山本美知子 | 八塚 洋<br>山崎 薫<br>横川 修 | 矢野 正平<br>山下 哲也<br>横田 和也 | 藪内 崇司<br>山田 光彦<br>吉尾 匡三 | 若江美千子 | 和氣坂ハナミ | 渡部 愛子 | 渡部 久仁子 | 渡部 浩三 | 渡邊 省三 | 渡部 剛 | 渡部由起子 |
|--|--|--|---|--|---|---|--|--|--|---|---|---|--|--|--|--|---|--|--|---|--|---|---|--|---|---|--|--------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|-------------------------|------------------------|------------------------|-------------------------|---------------------------------|---------------------------------|----------------------------------|-------------------------|------------------------|---|---|---|--|---|--|--|---------------------------------------|---|----------------------------------|---------------------------------|----------------------------------|---------------------------------|-------------------------|----------------------|-------------------------|-------------------------|-------|--------|-------|--------|-------|-------|------|-------|

(50音順・敬称略)

# 法文学部 人事異動 (2018年4月1日付)

▶社会科学講座	菅原 健志	講師	新規採用	2018.4.1
	三宅 裕樹	准教授	昇任(講師より)	2018.4.1
	佐藤 亮子	准教授	配置換(地域創成研究センターより)	2018.4.1
▶人文学講座	中筋 朋	准教授	昇任(講師より)	2017.10.1
	高橋 千佳	准教授	昇任(講師より)	2017.10.1
	柳 光子	教授	称号付与	2017.10.1
	加藤 好文	教授	定年退職	2018.3.31
			→教授(特定教員)採用	2018.4.1
	立川 信子	教授	定年退職	2018.3.31
			→教授(特定教員)採用	2018.4.1
中川 未来	准教授	昇任(講師より)	2018.4.1	
水野 卓	准教授	昇任(講師より)	2018.4.1	
児玉 麻美	准教授	昇任(講師より)	2018.4.1	
▶寄附講座	大西 正志	教授	任期満了退職	2018.3.31 (敬称略)

## 第9回 愛媛大学ホームカミングデイ 開催のお知らせ

日時：平成30年 **11月10日(土)** 13:00~19:00

場所：愛媛大学城北キャンパス 南加記念ホール

13:00~ 同時開催イベント

施設見学(愛媛大学ミュージアムツアー、植物工場見学=樽味)

15:00~ 式典

司会：合田みゆき氏(フリーアナウンサー、教育学部卒)

[第1部] 15:00~

- ・学長挨拶 大橋裕一学長
- ・愛媛大学の社会連携の取組紹介……仁科弘重社会連携推進機構長
- ・特別講演 内村浩美社会連携推進機構紙産業イノベーションセンター長  
大王製紙株式会社 新素材研究開発室 課長 大川淳也氏

~休憩~

[第2部] 16:20~

- ・チアリーディング部によるパフォーマンス
- ・スペシャルコンサート……ダンディーズ&附属小学校・中学校コーラス部
- ・学歌斉唱

17:15~ 懇親会(大会館1階)

愛媛大学オリジナルソーセージや植物工場で栽培されたトマトを使った料理の提供を予定。

【お問い合わせ】 愛媛大学総務部総務課総務チーム

電話：089(927)9014 E-mail:soumu@stu.ehime-u.ac.jp

愛媛大学校友会事務局

電話：089(927)8610 E-mail:office@koyu.ehime-u.jp

### 出願期間(予定)

○教養学部・大学院(修士選科生・修士科目生)

10月入学：第1回募集 2018年6月15日~2018年8月31日

第2回募集 2018年9月1日~2018年9月20日

4月入学：第1回募集 2018年12月1日~2019年2月28日

第2回募集 2019年3月1日~2019年3月20日

○大学院：修士全科生(年1回募集・選考試験あり)

8月中旬~8月下旬

多彩な放送授業約300科目。1科目からでも学べます。

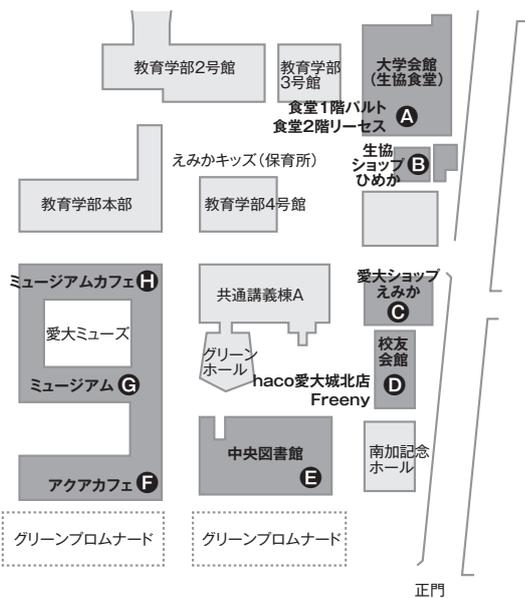
資料を無料でさし上げております。お気軽に、愛媛学習センターにご請求ください。

# 放送大学

放送大学 検索

〒790-0826 松山市文京町3番  
放送大学愛媛学習センター  
TEL 089-923-8544

# 愛媛大学城北キャンパス施設案内



## ◆利用可能な学内施設(図書館・食堂)

A 食堂1階「パルト」	平日10:00~19:40
	土11:00~19:40(日祝休み)
食堂2階「リーセス」	平日8:00~13:30(土日祝休み)
B 生協ショップ「ひめか」	平日10:00~18:15(土日祝休み)
C 愛大ショップ「えみか」	平日8:00~19:00 土10:00~16:30(日祝休み)
D haco愛大城北店	平日11:00~20:30(LO 20:00)
	土曜11:00~15:00(LO 14:00)(日祝休み)
Freeny	平日8:00~13:30(土日祝休み)
	※ラーニングスペースとして19:00まで利用できます。
E 中央図書館(城北)	平日9:00~22:00 土・日・祝日9:30~17:00
F アクアカフェ	平日10:00~18:00
	土曜10:00~16:30(日祝休み)
G ミュージアム	10:00~16:30(入館は16:00まで) 火曜日休館(試験日、年末年始も休み)
H ミュージアムカフェ	平日・日祝10:00~16:30(土曜休み)

## 法文同窓会 チーム

# 雨の中 お城下リレーマラソン完走!

2017(平成29)年10月21日(土)、松山市堀之内で開催された「マツヤマお城下リレーマラソン」に3年連続で法文同窓会チームが参加。雨が降り続く中、足下がドロドロになりながら、男性7名が1周1.5kmのコース28周を走りました。

お揃いのTシャツで交代しながら無事完走し、294チーム中100位という成績を収めました。

2018年は10月13日(土)、8名でお城下を駆け抜ける予定です。応援に来てね!

42.195km  
3時間28分37秒  
100位 / 294チーム



ジュールジュールのコンディションの中、完走したメンバー。(左から)大塚英俊、住友良光、高田敬士、寒作典真、土井明人、鳥生勉蔵、永原和弥(敬称略)

## Q&A

「会報及び同窓会に対するご意見・ご感想」でいただいたご意見について回答いたします。

**Q** 古本募金の日時を詳しく記載してほしい。

**A** 愛媛大学HPの中の愛媛大学基金のページに詳しく記載されています (<http://www.furuhon-bokin.jp/ehime-u/#about>)。本・CD・DVD・ゲームソフト等を段ボール箱へ詰め、申込書をご記入のうえ本と一緒に、提携会社に電話すると宅配業者が引き取りに来ます。5冊以上から、送料は無料になります。WEBでのお申込みの場合、段ボール箱への申込書の封入は不要で、指定のお時間に宅配業者が伺います。

**Q** 関西在住ですが、一度も同窓会の案内がありません。どうすれば案内をいただけるのでしょうか。

**A** 例年7月初旬に定期総会を開催し、また11月頃にはウォーキングを行い会員の親睦を図っています。総会の案内が届いていない場合は支部として把握できていない状況ですので、申し訳ございませんが下記までご連絡いただければ、即刻会員登録をさせていただきます。

にきたつ会 会長 岡本正明 0742-34-0190  
幹事長 赤星 勝 072-298-5735

**Q** 九州支部を作る予定はありませんか。

**A** 今のところ、九州支部設立についての情報は把握しておりません。

**Q** 同窓会50周年記念の時計は今どうなっていますか。

**A** 2009年10月に同窓会から法文学部に寄贈した塔時計は2016年6月中旬頃から故障しており、修理見積りの結果予想外の高額費用であることが判明しました。学部予算はなく、同窓会としても援助できないことから、同年9月、針を外してオブジェとして残すことになりました。

**Q** 子ども連れで学食は利用できますか。

**A** ご利用いただけます。うどんやハンバーグ、デザートなどお子様でも喜んでいただけるようなメニューを取り揃えております。メニューボードにはアレルギー表示もしておりますので、対応が必要な場合は近くの職員にお声かけくださいませ。ぜひご利用お待ちしております。(愛媛大学生活協同組合一同)

# 旧制松山高等学校 創立100周年

1919(大正8)年に設立された旧制松山高等学校(1949年の愛媛大学発足により1950年廃止)は、来年創立100周年を迎えます。しかし、卒業生の高齢化により同窓会の継続が困難となり、2019年3月に松山で開催予定の「松山高等学校創立100周年記念同窓会」を最後に活動を終わります。

今年6月11日(月)には、最後の東京支部同窓会がKKRホテル東京で開催されました。参加者は年々少なくなりましたが、台風の影響で雨が降る中、18名が出席し松山での再会を誓い合いました。



18名が参加して開催された最後の松山高等学校東京支部同窓会(2018年6月11日)

「旧制、松山高等学校 創立100周年記念DVD」(法文同窓会東京章光会の三宅さんが作成)。松山の風景や章光堂、過去の同窓会、ゴルフ会、中央寮歌祭などの写真を寮歌「若葉の古城」「三光寮を歌う」「暁雲こむる」をBGMにスライドショーに編集している

## ホームページリニューアル

法文学部同窓会のホームページが新しくなりました。

スマートフォンからも見やすいように、シンプルな画面構成になっています。

「総会・理事会」「会報」「支部だより」「提供講座」などの基本コンテンツに加え、愛媛大学の行事や法文学部のトピックスなどの新鮮な情報もお届けします。

下記アドレスへアクセス!

<http://ehime-u-houbun-dousoukai.com>

愛媛大学法文学部同窓会 検索



同期会やゼミ会をやりたけれど、住所が分からない!という方

**同窓会名簿の情報提供制度** をご存じですか?

同期会・ゼミ会を開くために同窓生と連絡を取りたい方に、同窓会名簿の「氏名・住所」に限り、情報を提供します。「参加対象者、日時と場所」などを届け、会の案内以外に使用しない旨の誓約書を書いていただきます。終了後は開催報告を提出してください。同窓会報へ掲載します。詳細は下記事務局まで。

〒790-8577 松山市文京町3番 愛媛大学法文学部内 法文学部同窓会事務局  
Tel : 089-917-6376 E-Mail : support@ehime-u-houbun-dousoukai.com

# 愛媛大学落語研究会

重原想大さん[落語研究会部長] 三宅一輝さん、坂田竜仁さん

昔は、「どこで」「なにが」「どのように」起こったか、情報を得る手段が「落語」だったと言います。「落語」は今日の、テレビ・ラジオ・SNS等、メディアの役割を果たすものだったのです。

愛媛大学落語研究会は、伝統と格式の継承のみならず、新しいものへも挑戦、何と！この会から、3人の真打ちの噺家も輩出しており、素晴らしいサークルです。



3回生副部長の三宅さん(十四代目香姫楼橋輔)

**Q. 部員は何人くらいいらっしゃいますか？**

**A.** 1～3回生で65人です。内、女性は1/3です。いつも集まるのは、30～40人ですね。



1回生大喜利デビュー

**Q. お稽古はどのようにされていますか？**

**A.** 木曜日と土曜日に稽古をしています。主に動画やDVDを見て稽古をします。3回生が1回生に稽古をつけます。3回生1人に弟子2人、師弟関係の成立です。亭号が、愛狂亭・愛家・香姫楼・寿亭・好乃家の五つあり、それぞれに属します。名前も3回生の師匠が与えます。

**[聞き手]** ちなみに、重原さんは、桃紅、三宅さん 輝雅、坂田さん 柚新だそうです。

下座である出囃子の太鼓は、二乗さん(プロの噺家)から三味線は、大阪の二三代師匠の指導を受けます。

**Q. 「隣の空き地に囲いが出来たよ。」「へえ～」とか「鳩が何か落としたよ。」「ふ～ん」こういう小噺から始めるのですか？**

**A.** 小噺は、あまりしません。新作落語・古典落語半々くらいでやっています。

**Q. 落語という芸能は、噺家の技巧と聞き手の想像力が必要で、手拭・扇子でも表現しますよね。**

**A.** はい。この、手拭・扇子及び足袋も師匠が与えます。

**聞き手:** へえ～、大変ですね！

**Q. 継承されている着物はありますか？お稽古の時は、着物を着ますか？**

**A.** 着物は、11枚くらいあります。稽古の時は着物を着ません。普段の格好です。継承されているものは、他に、「めぐり」(演目と演者を書いたもの)があります。寄席文字が継承され手書きで書いています。

**Q. 一年間のスケジュールを教えてください。**

**A.** 1月、新春寄席、4回生の卒業祝でもあります。7月7・8日「七福寄席」、1回生の大喜利デビューの日、3回生にとっては、最後の寄席となります。松山市民会館に於いて開催します。11月の大学祭は、1回生の落語デビューの日です。卒業生である真打ちの噺家に来て貰い「十円寄席」をやります。

**Q. 真打ちの噺家さんのお名前は？**

**A.** 古今亭菊志んさん、桂三幸さん(桂文枝弟子)、今年真打ち昇進の柳家花ん謝さんです。

**Q. 在学生の中に、プロ志望の方はいらっしゃいますか？**

**A.** 今のところいません。

落語研究会は、愛媛大学で一番面白い人間の集まりです。



七福寄席の看板と部員



(インタビュー 和氣坂ハナミ・廣田章子)

# Graduation Memories

平成29年度 法文学部卒業記念祝賀会 (2018.3.23)

卒業生数

- ◆総合政策学科  
昼間主267名 夜間主66名 (計333名)
- ◆人文学科  
昼間主135名 夜間主54名 (計189名)



加藤好文学部長挨拶 (S50年卒)



小池昭彦同窓会長挨拶 (S45年卒)



司会の後藤珠希さん (H18年卒)



謝辞  
人文学科 小野真梨萌さん



三木吉治元学長から三木奨学賞を受ける  
総合政策学科 秋野由奈子さん



総合政策学科



人文学科



光信一宏評議員の乾杯発声



吉田正広副学部長  
閉会の万歳三唱

# 支部だより

## 関東支部 [東京章光会]



東京章光会の平成30年度第54回定期総会は6月16日(土)に東京・大手町の「サンケイプラザ」にて開催されました。

総会当日は松山より法文学部長の吉田正広教授、法文学部同窓会本部の小池昭彦会長、校友会首都圏支部、法文学部同窓会関西支部、同広島支部、同四国支部、他学部同窓会東京支部他より多数のご来賓にご出席いただき、51名の出席者をもって開催することができました。

今年の総会は会場のリフォーム工事の都合で例年より約1か月早い開催となり、また当日は最高気温が19度という肌寒い日でしたが、昨年を6名も上回る出席者の方々に、総会を盛り上げて頂きました。

総会では、阿部会長の挨拶の後、平成29年度活動報告、平成30年度活動計画ならびに平成29年度決算報告・監査報告、平成30年度予算案につき、荒木副会長他から報告・説明があり、何れも満場一致で承認されました。また、阿部会長より各学部総会終了後の懇親会の合同開催についての審議をお願いし、出席者の方々よりご賛同を頂きました。

続いて大村事務局長補佐の総合司会のもと開催された懇親会では、吉田法文学部長によるご挨拶及び近年の法文学部の状況に関するご説明、小池同窓会長によるご挨拶及び乾杯のご発声の後、懇親に入りました。「葛飾フィルハーモニー管弦楽団」に所属されている佐藤欣三氏(昭和61年卒)、高田賀夫氏(平成4年卒)、同楽団の小野弘達様(明治大学卒)・小野祐子様(静岡大学卒)ご夫妻による弦楽四重奏演奏会(今回は歌って踊れる曲が中心となり、出席者有志による歌声披露もありました)の後、浅野幹事長補佐、森原幹事役、庵下幹事役の司会による恒例の福引抽選会、学歌斉唱をはさみ、森脇副会長による閉会の辞をもって総会は盛会の内に幕を閉じました。

来年度は今回ご賛同頂いた合同懇親会を実現させ、より多くの会員の方々、幅広い年代の方々に参加して頂けるよう、役員、幹事一同努力していきたく思っております。

東京章光会 事務局 西迫和則

### 東京章光会連絡先

Tel・Fax 03-3877-4677

(愛媛大学サテライトオフィス東京内)

## 関西支部 [にきたつ会]



関西にきたつ会は7月7日(土)に大阪市北区のプリーゼ・プラザで平成30年度定期総会を開催しました。大阪北部地震の余震が覚めやらぬ中、直後に台風の通過、未曾有の大雨など、交通手段が寸断された中で、まさに記憶に残る総会になりました。

総会には、同窓会本部から小池昭彦会長及び西田和真副会長、四国支部から中島邦雄副支部長、関西地区在住の会員の皆様の出席により、予定通り開催することができ、幹事一同感謝しております。

定期総会は、岡本会長の挨拶の後、決議事項として平成29年度活動報告及び平成30年度活動計画、平成29年度決算報告、監査報告を所管役員から報告、説明があり、何れも原案通り満場一致で承認されました。その後出席者全員による記念撮影をして、懇親会に移りました。

ご来賓の紹介後、ご来賓を代表して、小池会長から同窓会の現状と現在取り組んでいる事業及び課題についてご説明と協力要請がありました。懇親会では、乾杯の後、出席会員による近況報告及び詩吟等の披露もあり、恒例になりました万葉ウオーキングの説明が安藤副会長からあった時に、盛り上がりはピークに達しました。

締めくくりは、出席者全員による学歌・寮歌を合唱し、愛媛県の特産品を手土産に、来年の再会を約して散会しました。

健康ウオーキングは、にきたつ会の活性化を図るため、奈良にきたつ会が催していた行事を発展的に継承しました。毎年秋に実施しており、奈良県下の神社、仏閣、遺跡を2~3時間かけて探訪するものであり、日本歴史再発見に役立ちます。

今年は、11月18日(日)に、わが国でも有数の古墳群と良好な自然環境が残された、奈良県営馬見丘丘陵公園(奈良県河合町、広陵町)を散策します。食事会で参加者の親交を深め、有意義な一日を過ごすことが出来ます。オープン参加で、趣旨に賛同していただける方は誰でも参加できます。

にきたつ会は昭和37年に立ち上げ、支部の中では最も古い歴史を有しており、今年で56年目を迎えました。しかし総会への参加者は高齢者がほとんどで、若年層(平成12年以降の卒業生)は「0」の状態が続いております。この様な状況が続けば、当会は維持出来なくなると懸念されます。にきたつ会の将来への在り方について、皆様の忌憚りの無いご意見をお聞かせください。

### 関西にきたつ会連絡先

会長 岡本正明

Tel 0742-34-0190 E-mail: bookhill@nifty.com

または、ご存知の役員・幹事まで

## 広島支部



広島支部では第13回総会を平成29年10月14日(土)『広島ガーデンパレス』にて51名の参加者で開催しました。

当日は、大学から加藤学部長が、同窓会本部から小池会長、松本副会長が、東京章光会から西迫事務局長が、関西支部にきたつ会から岡本会長が、四国支部から中島副支部長が駆けつけてくれました。

また、卓話については加藤学部長から、『愛媛大学、変わる』というテーマで、大学改革の必要性とそれに伴う法文学部の改組についてお話いただきました。

その後の懇親会においては、昭和35年卒楠本先輩による乾杯の後、フルーツとギターの生演奏を楽しんだり、今回ご都合で参加できなかった方々からのメッセージを配布させていただいたりして、とても楽しい会となりました。

最後の締めくくりでは、岡田支部長の音頭にて『愛媛大学学歌』、逍遙歌『若葉の古城』『三光寮を歌う』を声高らかに歌い上げた後、昭和32年卒松室先輩の中締めで、名残を惜しみつつ、来年もまたお会いしましょうと散会となりました。

世代を超えた交流を通じて、より同窓会の意義を高めていただいたように思います。

第14回総会は平成30年9月8日(土)14時から『ひろしまハイビル21』(広島電鉄1・2・6号線「銀山町」下車)にて、校友会中国支部設立総会を兼ねて開催の予定です。

みなさまお誘いあわせのうえ今後の総会へのご参加をお待ちしています。

### 役員

顧問	竹本 義昌 (昭和33年文理学部 人文乙卒)
顧問	楠本 淳 (昭和35年文理学部 人文乙卒)
支部長	岡田 禎之 (昭和40年文理学部 人文乙卒)
副支部長	難波 宜久 (昭和62年法文学部 法学卒)
事務局長	品川 瑞 (平成5年法文学部 法学卒)
幹事	村上 道機 (昭和43年文理学部 人文乙卒)
幹事	梶原 勝 (昭和63年法文学部 経済卒)
幹事	松本 亜紀 (平成5年法文学部 法学卒)
幹事	大西 慎也 (平成18年法文学部 総政卒)

### 広島支部連絡先

あさがお司法書士事務所内 品川 082-208-5886

## 四国支部



### 第12回 総会報告

平成29年11月10日(金)にピュアフル松山にて四国支部第12回総会を開催しました。宇都宮支部長のあいさつがあり議案が承認された後、懇親会が開催され、参加者の自己紹介やビンゴゲームなどが行われました。いつも進行のお手伝いをさせていただいた後藤さんが徳島に帰られることとなり、当支部の井手さんが5年以上の歳月をかけて出版された「子規事典」が記念に贈られました。

### 第8回 四国支部お花見報告

平成30年4月7日(土)すし丸本店にて県外からの参加者を含めて24名で開催しました。これからも毎年開催したいと思います。

### 第13回 四国支部総会のご案内

日時：平成30年11月11日(日) 11時より

場所：松山全日空ホテル南館にて

会費 無料

\*本部と合同です。当日は法文学部設立50周年記念式典も開催されます。

### 第9回 四国支部お花見のご案内

日時：平成31年4月6日(土) 13時より

場所：すし丸本店にて

会費：3,000円



### 事務局の変更

広報や案内等の担当が玉井から鳥生になりました。

### 四国支部事務局連絡先

副支部長 玉井周平 携帯 090-8973-7650

E-Mail : tousui78@yahoo.co.jp

事務局 鳥生勉歳 携帯 090-4506-1684

E-Mail : toriu71@gmail.com

# 支部紹介 四国支部

## 大学のお膝元、本部との連携も密に

2006(平成18)年11月に設立された四国支部は、現在4つある支部(東京章光会、関西きたつ会、広島支部、四国支部)の中では一番新しい支部です。初代が白石隆さん、2代目に宇都宮真由美さんと、ずっと弁護士の方が支部長を務めています。今年、13年目を迎え、宇都宮支部長を中心に年1回の総会とお花見をはじめ、役員会・理事会を数回開いています。

地元にある支部として、同窓会本部の補完的な意味合いもあります。本部総会は3年に1回開かれますが、毎年の支部総会とお花見は、その間の懇親会を兼ねています。

今回は、愛媛大学のお膝元で活動する四国支部をご紹介します。



四国支部定期総会(2007年11月16日)

### 第12回 定期総会・懇親会

日時: 2017年11月10日(金) 18:30~

場所: ピュアフル松山(旧勤労会館)

人数: 34名



宇都宮真由美  
四国支部長

毎回、ピュアフル松山で開催されている四国支部総会。遠方からも参加しやすいように、大学祭(ホームカミングデイ)の頃に合わせています。平成29年度も11月11日(土)のホームカミングデイの前日で、支部総会の前には、4つの支部の代表が集まる支部長

会も開かれました。関東・関西・広島の各支部長はこの日松山に宿泊して、翌日のホームカミングデイに出席、学祭を見学して帰ります。

宇都宮支部長の挨拶の後、理事会・役員会や他支部総会交流報告、会計報告、そして来年度の活動予定、予算、役員変更が承認されました。この間、約10分。そして記念撮影の後、メインの懇親会です。

懇親会では、各自オードブルを皿に取り分け、アルコールも程よく回り、和やかに親睦を深めます。本部会長・各支部長の挨拶や出席者の自己紹介が一通り終わった後は、四国支部恒例のビンゴゲームとクイズ、じゃんけん大会です。玉井副支部長による名調子の進行で、終盤のじゃんけん大会の頃には、盛り上がりも最高潮に達します。ハズレ無しの景品が用意され、参加者全員に行き渡った後は、学歌と寮歌「三光寮を歌ふ」を合唱して、来年の再開を誓いながらお開きです。



四国支部定期総会(2017年)

設立時からお世話をしている玉井周平さんにお話を聞きました。



### 玉井 周平さん

アイサービス・玉井事務所、  
四国支部副支部長、1978年卒

「若林先生を囲む会」にフジの社長を務めた時任さんや亡くなった新谷さん(四国支部副支部長・本部理事)、小池会長、玉井元会長などと参加していたのですが、そこから同窓会に関わるようになりました。もう25年くらいで、現在の本部理事では一番古株になっています。

本部の総会が3年に1回の開催になって毎年の親睦の機会がないため、その受け皿として四国支部が設立されました。今年で13年目になりますが、愛媛県議会議長に会員の毛利修三さんが就任されたり、宇都宮支部長が日弁連の副会長に就任されるなど名誉なこともありました。毎年参加してくれる方や、香川や岡山など遠方からはるばる来られる同窓生もおり、皆さんに楽しんでいただけることで継続していけると実感しています。

今後は、愛媛以外の四国の3県にも活動の幅を広げていくのが理想ですが、あまり無理をせず、まずは県外の人が松山に来る機会を提供していきたいと思います。

# 四国支部メンバーにインタビュー



## 白井 瞳さん

元高校教諭  
1964年卒

本部の理事になってから20年近く関わっています。四国支部では設立の時から会計・庶務の担当です。国文の同窓生は教師になった人が多く、同窓会活動で法文学部の卒業生がいろいろな分野で活躍していることが分かり、視野が広がりました。愛校心も培われたかなと思います。若い人にも参加してもらえたらいいですね。



## 中島 邦雄さん

日本料理すし丸専務、四国支部副支部長  
1983年卒

ライオンズ活動で宇都宮支部長に誘われ、5年ほど前からホームカミングデイや支部総会に参加しています。恩師の森孝明先生がちょうど同窓会長をされていたのも何かの縁だと感じています。近い年齢の同窓生としか付き合いがなかったのが、先輩方をはじめ幅広い世代の方と関わったことは有り難く、何かのお役にたてればと思います。



## 寒作 典員さん

松山南消防署  
2000年卒

毎年届く会報に支部総会の案内が載っていたので、ハガキを出したのがきっかけです。消防署には同窓生が少なく、年上の人や違う職種の人と話せることが魅力です。30～40代は家庭や職場で不安を抱えている世代ですが、先輩の話聞いて参考にさせてもらっています。若い人たちを誘って参加してもらうことが私の役目かなと思います。



## 和氣坂ハナミさん

愛媛大学法文学部日本史研究室研究補助員  
1996年卒

四国支部には、本部の理事になった6年ほど前から出席するようになりました。渡部家住宅でのお花見が復活したら行ってみたいと思います。総会やお花見に一人で参加するのは少し敷居が高い感じがしますから、親しい同窓生を誘って見たらどうでしょうか。親睦だけでなく、ボランティアなどの社会活動も取り組めたらいいですね。



## 久保 泰敏さん

愛媛大学法文学部就職相談員  
本部事務局長、1974年卒

同窓会長も務められた西田先生に誘われて2005年に本部の理事になりました。四国支部には事務局長に就いた3年前から参加しています。緩やかに親睦を深める感じが、肩に力を入れずに参加できていいですね。これからもできるだけ出席します。関西のようなウォーキングのイベントなどがあれば、みんなが参加できるのでは。

# 四国支部恒例・お花見会

2011(平成23)年から春のお花見会を開催しています。秋の支部総会の半年後に理事会を兼ねた親睦の場として、毎年多数の参加者が集います。会の最後は、井手康夫さん(第2代同窓会長)のリードによる寮歌「三光寮を歌ふ」の合唱や、在学時に応援団長を務めた真鍋八洲雄さん(四国支部会計監事)のエールに合わせた全員の発声で締めくくります。

### ▶第1回 2011(平成23)年4月2日

#### 渡部家住宅 (国重要文化財)

松山市東方町にある渡部浩三さん(四国支部会計監事)の実家で、国の重要文化財に指定されています。1866(慶応2)年に上棟された150年以上の歴史を誇る庄屋住宅です。当主の渡部さんに内部の説明をしていただき、お弁当とお茶・ビールなどで会食を楽しみました。



第1回お花見

### ▶第2回 2012(平成24)年4月7日

### ▶第3回 2013(平成25)年4月6日

### ▶第4回 2014(平成26)年4月5日

#### 奥道後竹寿庵

奥道後のオーナーであった坪内寿夫氏が、親交のあった作家の柴田錬三郎の書斎として造った茅葺き合掌造りの庵です。日露戦争勝利の立役者・東郷平八郎元帥揮毫の額が飾られています。落ち着いた雰囲気、畳の大広間で、オードブルとお茶やお酒を認めながら楽しく過ごしました。大学までバスで送迎してもらえるので、郊外でも心置きなく飲めるお花見でした。



第3回お花見

### ▶第5回 2015(平成27)年4月18日

### ▶第6回 2016(平成28)年4月2日

### ▶第7回 2017(平成29)年4月8日

### ▶第8回 2018(平成30)年4月7日

#### すし丸本店

すし丸専務の中島邦雄さん(本部理事・四国支部副支部長)にお世話になり、本部・四国支部とも年に数回利用しています。足の悪い方に配慮して、座敷にテーブルと椅子を置いてもらい、美味しい料理と地酒に舌鼓を打ちます。街中での開催で集まりやすく、料理を運んだりしなくてもいいので、準備が楽なのも魅力です。

